

第5次府中市総合計画
に—まるさんまる
しあわせ府中2030プラン

広島県府中市

はじめに

現在、府中市をはじめ、地方自治体は大きな変化の流れの中にいます。

Society5.0の実現に向けた動きやAI、IoTといったICTの急激な進歩、若者を中心とした仕事や働き方、暮らしに対する意識の変化などが生じており、この変化を的確に捉え、対応していけるか否かが、全国的に人口減少・少子高齢化が進む中で地方自治体が今後も持続的に発展していけるか否かの分岐点となります。



また、本市が持続的に発展していくためには、こうした変化を捉えるだけでなく、本市の持つ特徴、強みといった、「府中市だからこそ」を前面に出していかなければなりません。

この点において、本市は、多種多様なものづくり産業の集積、全国トップクラスの教育・子育ての取組、歴史の裏打ちと時代の面影が折り重なった町並みの魅力、市街地からわずかに移動するだけで田園風景に出会える都市と自然の近接性・多様性、市内に数多く存在するまちづくりに熱心な人や団体など、他の自治体にはない特徴や強みが数多くあります。

このような「府中市だからこそ」といった特徴、強みを徹底的に磨いて伸ばし、市民の皆さんに本市へ愛着と誇りを持っていただくとともに、その魅力を発信し、市内外の人や企業から「選ばれるまち」となることを目指して、「第5次府中市総合計画」を策定しました。

また、今回は、総合計画の実行性を高め、各施策をより具体的に推進していくために、産業や観光などの分野別の新たな「戦略的ビジョン」の策定を進めるとともに、行政の質の向上を目指した「行政経営プラン」の策定を進めるなど、市役所の変革にも取り組んでいます。

本市が今以上に元気になるには、市民の皆さんと目指す将来像を共有し、共にまちづくりを進めていく必要があります。

「しあわせ実感！“力強さ”と“やさしさ”のある未来を創造するまち 府中市」の実現に向けて、市民、団体、企業、行政が一丸となって、まちづくりに取り組んでまいりましょう。

令和2年6月

府中市長 小野 申人

■ 序論	1
第1章 総合計画策定の背景	2
第2章 総合計画の構成・期間・進捗管理	4
第3章 総合計画に必要な視点	6
■ まちの未来構想	25
第1章 まちの将来像	26
第2章 将来像を実現するための基本目標	29
■ 要素別の政策分野と施策方針	35
基本目標1 力強い産業が発展するまち	35
基本目標2 人・つながりが育つまち	45
基本目標3 活気・賑わい <small>にぎ</small> を生むまち	55
基本目標4 安全・安心が持続するまち	67
基本目標5 ICT都市ふちゅうの実現	79
横断的目標 「選ばれるまち」ふちゅうの実現	83
将来像を実現するための行政経営の方針	86
■ 語句解説	89
■ 参考資料	95

序論



- 総合計画策定の背景
- 総合計画の構成・期間・進捗管理
- 総合計画に必要な視点

第1章 総合計画策定の背景

1. 総合計画とは

総合計画は、市政を推進していくための計画として最も上位に位置づけられる計画で、本市の総合的、計画的な行政推進の指針であり、また市民、企業、行政が一体となって共有し、協働して取り組むための総合的な指針としても位置付けられるものです。

2. これまでの取組

(1) 第4次府中市総合計画

本市では、平成27(2015)年度に「第4次府中市総合計画」を策定し、将来像「笑顔で豊かな暮らしができる府中市～支えあい みんなで創る 府中愛～」を将来都市像に掲げ、6つの基本目標を定めてまちづくりを推進してきました。

(2) 府中市まち・ひと・しごと総合戦略（第1期）

また、本市では、平成27(2015)年度に「府中市まち・ひと・しごと総合戦略」と「府中市人口ビジョン」を策定し、人口減少、少子化に対応する戦略として、本市の地域特性であるものづくり産業、歴史・文化、緑に囲まれた自然環境などを踏まえたうえで、「雇用の場の創出」、「子育て環境づくり」、「定住対策」などを施策の柱として掲げ、将来にわたって持続可能な地域を目指した取組を推進しています。

3. 新たな総合計画の策定の背景

(1) 新たな時代の潮流をとらえる

人口減少と少子・高齢化が進む中、人口減少の克服に向けた地方創生の取組が国や全国各地の自治体で進められてきましたが、人口の東京一極集中には歯止めがかからず、地方における人口減少や少子高齢化が進行しています。また、シェアリングエコノミーの考え方など、一人ひとりのライフスタイルに対する価値観の多様化が進んでいます。さらに、予想を上回るスピードで ICT が進歩しており、市民生活の分野や、産業、行政の分野においても、こうした最新の技術を取り入れることが必要になってきているなど、様々な分野で社会情勢は著しい変化を遂げており、今後も大きな変化が起こることが予想されています。

府中市においても、これまで第 4 次府中市総合計画や総合戦略において様々な施策を進めてきたところですが、少子化、高齢化の流れは変わらず、産業分野全体に対する影響は、より深刻さを増し、とりわけ、農業の継続、さらには地域社会の存続自体も厳しい局面を迎えています。

今、改めて、将来を見据えた長期的な視点に立ち、社会環境の変化や時代の潮流を的確に捉えたいうで、地域課題を克服する計画を策定する必要があります。

(2) 府中市の強みを活かす^い

府中市が将来にわたって真に持続し続けるためには、市民が、府中市に生まれ（産み）、育ち（育て）、学び、住み、働き、活動するといった生活に幸せや豊かさを感じ、誇りを持ち、元気であることが大切です。

また、市外の在住者にも魅力を感じてもらい、府中市に来てもらうこと、そしてまちづくりの一員として迎え入れ、技術や知識、人脈などを通じて本市の活性化に寄与してもらうことも、府中市の持続的な発展には必要です。

改めて、人口減少・少子高齢化に真正面から向き合い、府中市の強みを再度認識し、それを十分に活かした「府中市だからこそ」を前面に打ち出した戦略を描き、本市の魅力を高め、価値を生み出す取組を行わなければ、全国に 1,700 以上ある地方自治体のなかに埋もれてしまい、「選ばれるまち」になることはできません。



こうした観点から、時代の変化に対応し、府中市の持つ強みを最大限に活かすため、新しい視点に立った「第 5 次府中市総合計画」を策定します。

この計画を、府中市が目指す将来像を実現するための羅針盤として掲げ、市民、団体、企業、行政が一体となり、また、市外在住者も巻き込んだ取組に広げ、「オール府中」でまちづくりを推進し、皆で力強い新たな一步を踏み出しましょう。

第2章 総合計画の構成・期間・進捗管理

1. 総合計画の構成

第5次府中市総合計画は、「未来構想」と「施策方針」で構成し、産業振興ビジョンなどの各戦略的ビジョンや個別計画、総合戦略、毎年度の予算と政策協議（以下「戦略的ビジョン等」という。）により実行していきます。

また、そうした取組の基礎となる方針として、行政経営プランを定めます。

●未来構想

未来構想は、府中市の目指すべき将来像と将来像を実現するための基本目標を明らかにし、まちづくりの主体となる市民、団体、企業、行政が共有し、まちづくりを進めていくための羅針盤となるものです。

●施策方針

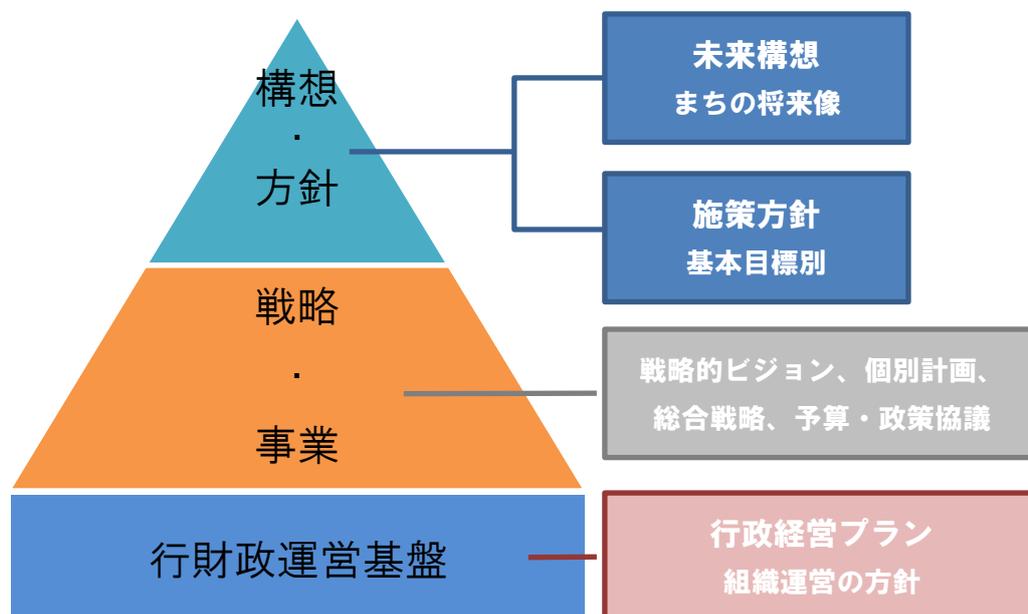
施策方針は、未来構想で掲げた将来像を実現するために、基本目標（テーマ）ごとに政策と基本施策の方向性を示すものです。

●戦略

施策方針で掲げたテーマ別の方向性をもとに、戦略的ビジョン等で具体的な戦略を定め、事業を実施していきます。

●行政経営プラン

組織、人材、財務などの「行政経営」を推進するもので、総合計画に基づいて実施する施策を支える取組を示すものです。



2. 総合計画等の期間

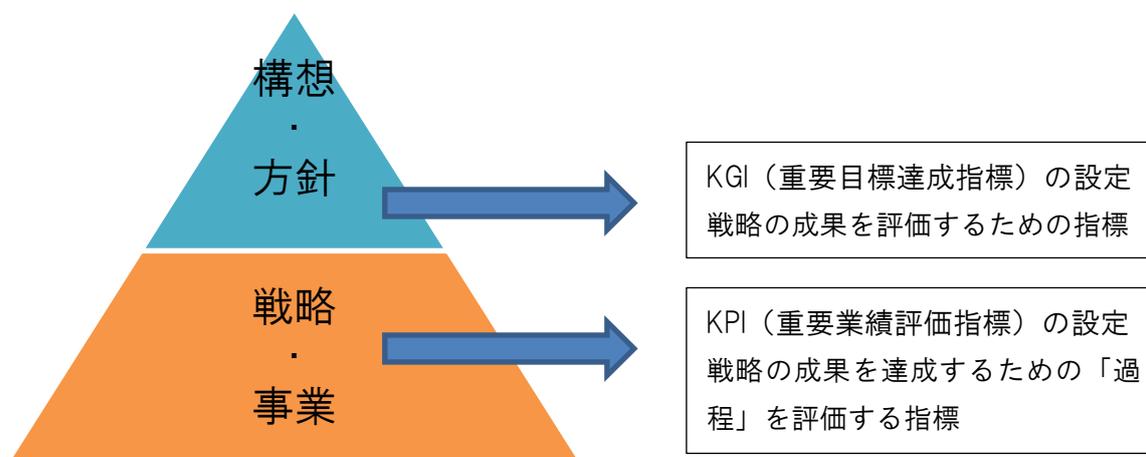
第5次府中市総合計画の計画期間は、令和2年度（2020年度）から令和11年度（2029年度）までの10年間とし、戦略的ビジョン等については、5年間程度の中期的な期間を計画期間とします。

なお、いずれも、政策・施策の執行進捗や社会情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しを行うこととします。

3. 総合計画の進捗管理

第5次府中市総合計画は、未来構想の実現を目指し、施策方針と戦略的ビジョン等の連動により施策を進めていきます。

また、施策の達成度を測るために、施策方針にはKGI（重要目標達成指標）を設定し、施策方針の成果を評価するとともに、戦略的ビジョン等にはKPI（重要業績評価指標）を設定し、施策方針の成果を達成するための過程を評価します、このKGIとKPIを連動させながら、PDCAサイクルにより計画の進捗管理を行っていきます。



第3章 総合計画に必要な視点

1. 府中市を取り巻くこれからの社会潮流

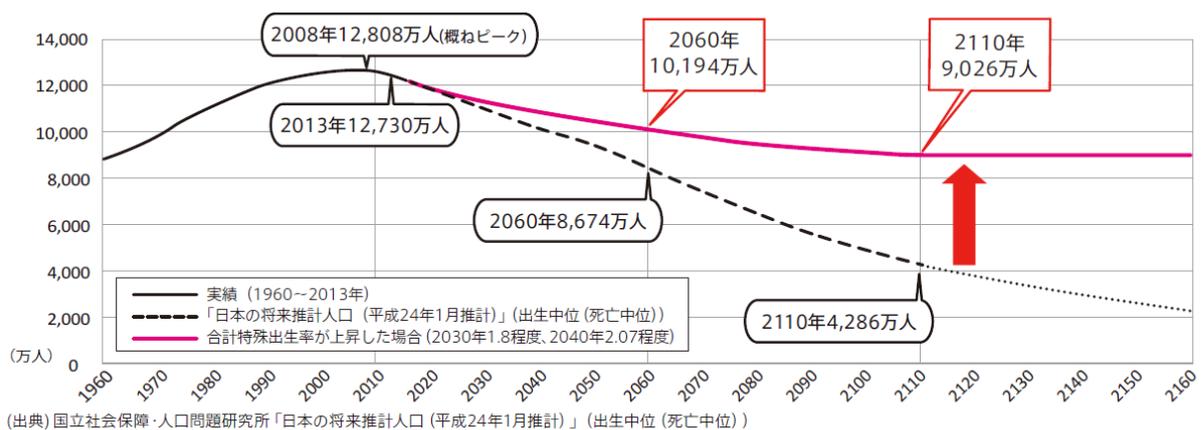
(1) 人口減少社会・超高齢社会の到来

我が国の総人口は、平成 20 (2008) 年をピークに減少局面に入り、令和 42 (2060) 年には 8,674 万人と 1 億人を割り込み加速度的に減少が進むと見込まれています (国立社会保障・人口問題研究所推計)。また、全国の高齢者人口は、平成 30 (2018) 年には 3,557 万人を超え、高齢化率は 28.1% と過去最高となっています。

人口減少社会・超高齢社会の到来は、経済活動の縮小、地域コミュニティの崩壊、社会生活基盤の劣化など、様々な影響を及ぼすことが懸念されており、国を挙げて地方創生の取組が進められています。

府中市においても、全国的な人口減少の流れと同じく人口減少が進行しており、人口減少対策の取組がまちの未来を大きく方向づける重要な転換期を迎えています。この人口減少を抑制するため、市の魅力を磨いて価値を高め、人を呼び込み、定着する取組をより一層加速させる必要があります。

【我が国の人口の推移と長期的な見通し】



(2) 価値観の変化と多様化

近年、若者を中心として人々の価値観が大きく変化し、多様化が進んでいます。

例えば、従来のモノを購入・所有することに価値をおく生活は、モノをシェアすることや様々なコトを楽しむこと、ヒトとの繋がりを楽しむことへと変化しています。また、仕事を「金銭の獲得」から「自己実現の手段」へ捉えるような変化も生じてきています。

こうした価値観の変化や多様性の中で、場所や時間の制約を受けない働き方も生まれており、都市圏から地方へと人の流れができています。

人々の暮らしの価値観が多様化する中、これから府中市が、多様な人材の集積を図るためには、この価値観の変化に対応し、仕事、暮らし、子育てといったあらゆる面で、希望が叶う環境をつくり、自らがライフスタイルをデザインできるまちづくりを進める必要があります。

(3) 働き方改革をはじめとする誰もが活躍できる社会の推進

我が国は、「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」「育児や介護との両立など、働く人のニーズの多様化」などの状況に直面しています。こうした中、イノベーションの実現等による生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境をつくることが重要な課題になっています。「働き方改革」は、この課題の解決のため、働く人の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く人一人ひとりがよりよい将来の展望を持てることを目指しています。具体的には、長時間労働の是正、雇用形態にかかわらず待遇の確保、柔軟な働き方がしやすい環境整備やハラスメントの防止、ダイバーシティの推進、所得の向上・労働生産性向上や再就職支援・人材育成など「働きやすい職場づくり」と「ワークシェアリング」を指しています。特に、性別、年齢、障害の有無、ライフスタイルや価値観の違いに沿った働き方を可能にすることが、企業にとっては生産性の向上につながるという観点からも、こうした環境整備を進める必要があります。

府中市においても、高齢化、生産年齢人口の減少が進むなか、多様な働き方の支援により、柔軟で働きやすい環境づくりを拡大させ、安定した労働力を確保していくことが重要となっています。

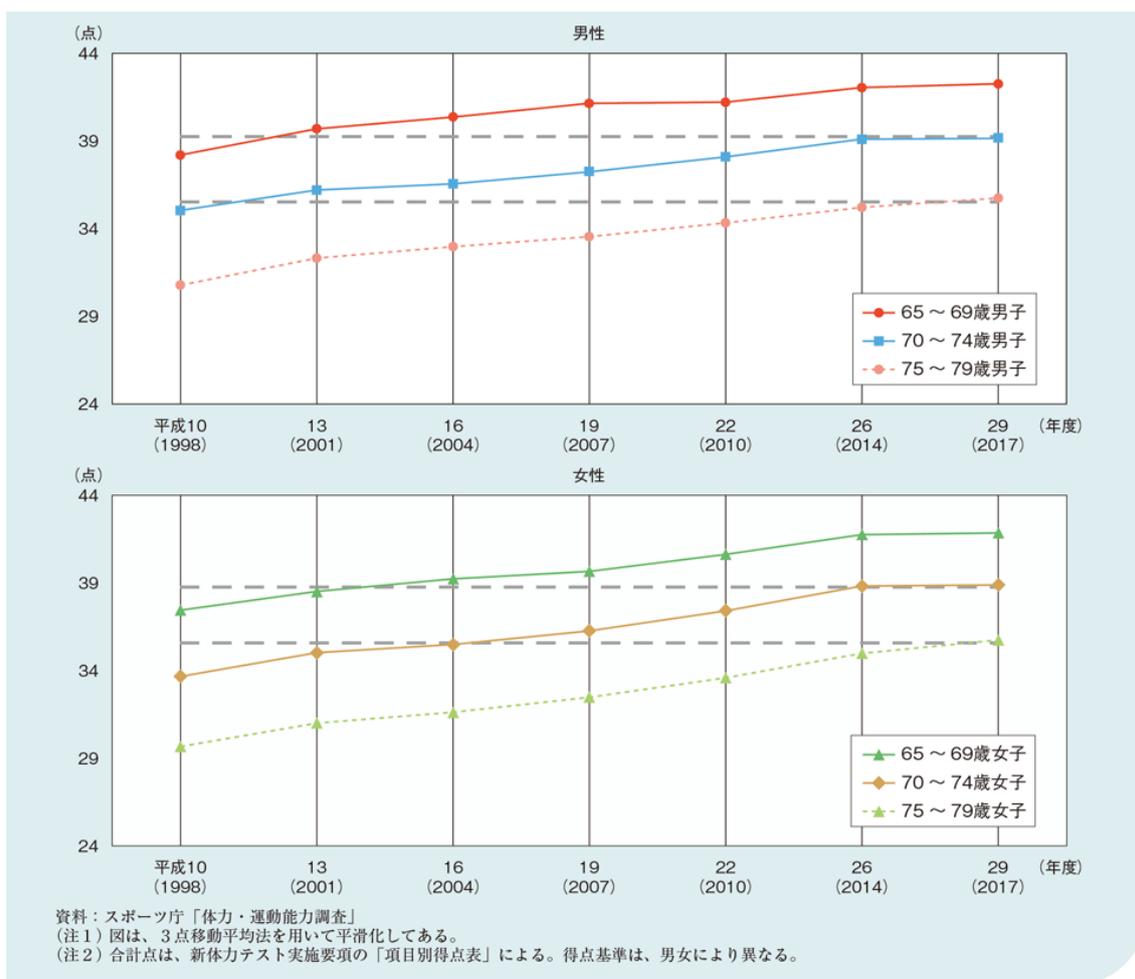
(4) 人生 100 年時代の到来

我が国は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎えており、さらなる健康寿命の延伸を目指し、データヘルスの推進等、科学的根拠に基づく、疾病予防・健康づくりへの取組や、民間との多様で包括的な連携による医療・保健・介護のサービスの質の向上と効率化が推進されています。

「最近のお年寄りは若い」と言われますが、国の調査でも、現在の 70～74 歳の体力が約 20 年前の 65～69 歳の体力を上回っており、また内閣府の「平成 26 年高齢者の日常生活に関する意識調査」によると 70 歳以降まで働くことを希望している高齢者は 8 割にのぼるとされ、多くの高齢者が「生涯現役」を望んでいるとされています。

府中市においても、高齢者がいつまでも自立した生活に裏付けられた自主的な活動を送ることができるよう、若い世代からの健康づくりやフレイル予防、前期高齢者から行う介護予防の取組を実施し、元気に活躍し続けられる期間を長くする仕組みづくりが重要となっています。

【新体力テストの合計点】



令和元年版高齢社会白書（内閣府）より

（５）協働社会の進展

単身世帯が増加するなかで高齢化も相まって、介護などの社会福祉の面での需要が高まっています。一方、地方財政が厳しさを増す中で公的なサービスの限界もあり、地域コミュニティを再構築して共に支え合う社会を築くことが求められています。また、精神的な豊かさの追求に加えて、ボランティアなどによる住民の社会貢献活動のほか、企業や NPO 等も地域づくりに関わることで、地域コミュニティの中での豊かさにつながる協働の取組が一層重要となってきました。

府中市においても、今後の持続的な社会をつくるうえで、地域社会における市民・企業・団体との協働によるまちづくりの重要性は高まっており、市民の価値観やライフスタイルの多様化にあわせ、様々な市民による多面的なコミュニティや交流の場づくりを展開することで、市民同士がつながり、共に支え合う市民力を高める取組が重要となっています。

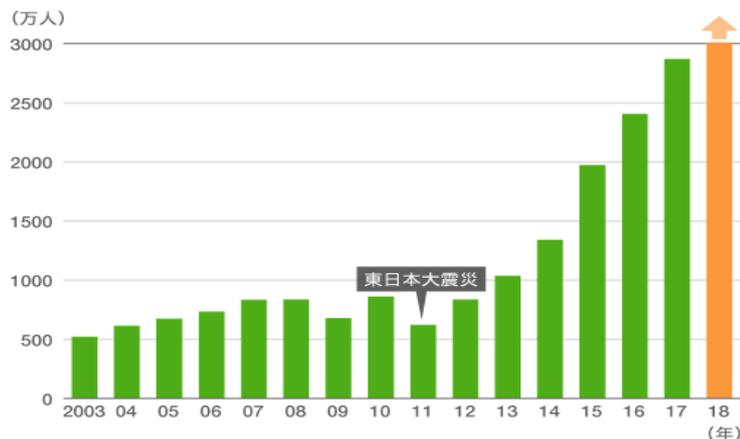
（６）社会経済のグローバル化と多文化共生社会の進展

グローバル化の進展により様々な分野における国際競争が激化しており、私たちの生活においても大きな影響が生じています。このような状況の下、国内においては、堅調に増加する訪日外国人によるインバウンド消費が拡大するとともに、増大する海外需要を背景とした輸出の拡大や海外進出などにより、経済活動の収益基盤拡大が図られています。

また、生産年齢人口の減少による労働力不足を背景に、国内企業の担い手として大きな力となっている外国人労働者の増加も顕著となっており、この傾向は今後も続くと考えられています。文化や生活様式の違いをお互いが認め合い、日本人も外国人も誰もが共生できる社会づくりが求められています。

府中市においても、事業者の海外進出の支援、外国人観光客の誘客プロモーションなどに取り組み、グローバル社会で活躍する人材育成などを進めるとともに、外国人労働者とその家族の受入環境を整え、ヒト・モノ・カネ・情報の交流を拡大していくことが必要となっています。

【訪日外国人数の推移】



(日本政府観光局データ)

(7) ICTによる地域社会の課題解決の実現

国においては、平成25(2013)年より「ICT成長戦略」を掲げ、社会実装戦略、新産業創出戦略、研究開発戦略の3つの柱を設定し、超高齢社会への対応や防災対策等、各種課題に対応するために、IoT、ビッグデータ、AI、ロボット・センサー等のイノベーションを、あらゆる産業や社会生活に取り入れた技術革新を戦略的に進め「Society5.0」の実現を目指しています。

こうした「Society5.0」の進展は、民間企業による産業革新のみならず、医療や教育、買い物支援サービス等人々の暮らしにおいて地理的・時間的制約を取り除いた地域社会の課題解決への影響を及ぼすことが期待されています。

また、行政分野においてもICTを活用した利便性向上や行政事務の効率化が進められており、マイナンバー制度の導入・活用などにより、利便性の高い行政サービスの提供や業務効率化・省力化に向けた取組が求められています。

府中市においても、少子高齢化・人口減少社会を克服し、市民生活をより豊かにしていくため、IoT、AIなどの技術を活用するとともに、市民や学校教育におけるICTスキルの獲得やリテラシーの向上、官民によるオープンデータプラットフォームの構築、5Gの整備に向けた取組など、あらゆる産業や社会生活、行政サービスにICTを積極的かつ最大限に取り入れていく必要があります。

【Society5.0で実現する社会】



(8) 持続可能な開発目標 (SDGs) に向けた取組の加速化

2015年に国連サミットにおいて採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済、社会及び環境をめぐる広範な課題に対して統合的に取り組むこととしています。

我が国においては、「あらゆる人々の活躍の推進」や「健康長寿の達成」、「成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション」など8つの優先課題を掲げ、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」こととしています。

府中市においても、SDGsの考えを取り入れた「持続可能なまち」の実現を目指し、経済、社会、環境が連動した課題解決に向けた取組を進めていく必要があります。

【SDGs指標：持続可能な世界を実現するための17の目標と内容】

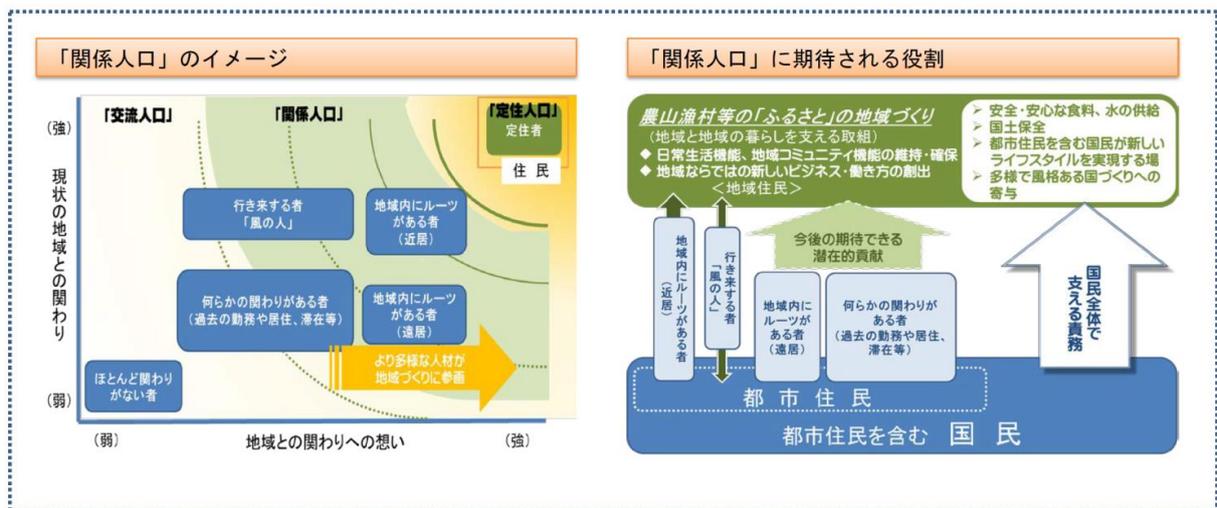
	1 貧困をなくそう あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ		10 人や国の不平等をなくそう 国内および国家間の不平等を是正する
	2 飢餓をゼロに 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する		11 住み続けられるまちづくりを 都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする
	3 すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する		12 つくる責任 つかう責任 持続可能な消費と生産のパターンを確保する
	4 質の高い教育をみんなに すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する		13 気候変動に具体的な対策を 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
	5 ジェンダー平等を実現しよう ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る		14 海の豊かさを守ろう 海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
	6 安全な水とトイレを世界中に すべての人々に水と衛生へのアクセスを確保する		15 陸の豊かさを守ろう 森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する		16 平和と公正をすべての人に 公正、平和かつ包摂的な社会を推進する
	8 働きがいも経済成長も すべての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、雇用およびディーセント・ワークを推進する		17 パートナーシップで目標を達成しよう 持続可能な開発に向けてグローバル・パートナーシップを活性化する
	9 産業と技術革新の基盤をつくろう レジリエントなインフラを整備し、持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る		

(9) 関係人口の拡大

我が国の地方圏では、人口減少・高齢化により地域づくりの担い手不足という課題に直面しています。そうしたなか、域外からの若者を中心とした変化を生み出す人材が地域に入り、地域づくりの担い手となっている事例があります。こうした人々を「関係人口」と呼び、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人とされています。

令和2年1月～2月に内閣府が実施した東京圏在住の20代～50代の1万人に対して行ったアンケート調査によると、約半数が「地方暮らし」に関心があるという結果が判明しました。そのうち『具体的に移住を計画 15%』、『移住情報を収集 15%』となっており、東京一極集中が続く中、約500万人（1都3県3600万人×15%）もの移住希望者層が存在しているということになります。

府中市においても、人口減少が進行する中、移住関心層の獲得を視野に「関係人口」の拡大を進め、地域における新たなイノベーションを起こし、また、市の応援団として活動する多様な人材を集積することが求められています。



(10) 甚大化する自然災害や感染症等のリスクへの対応

近年、地球温暖化に伴う大規模風水害や地震災害といった自然災害が多発化し、甚大化しています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大や情報システムに起因するトラブルといった、今までの常識では予測不可能なリスクが日常生活に潜んでいることを実感する機会が増えており、こういったリスクに対応した危機管理体制の構築が急務となっています。

また、我が国では、高度成長期以降に大量に整備されたインフラの老朽化が進んできていることから、自然災害から安全を確保するために、インフラの適切な維持管理・更新による国土の強靱化が必要となっています。

府中市においても、これまでの大規模風水害の被災を教訓とした防災体制の強化、インフラの強靱化による減災対策、避難体制の見直しが必要となっているほか、感染症をはじめとしたあらゆるリスクへの対策が重要な課題となっています。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う補足

令和 2（2020）年、世界中で新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）が拡大するなか、これまでの社会常識が覆る、パラダイムシフトが起ころうとしています。

自宅待機の要請、多数の人々が集うことに対するリスク意識の変化などを経て、移動を前提としない在宅ワークや Web による会議が進むなど、仕事の分野をはじめ暮らしの様々な分野での ICT 化に対する注目が高まりつつあります。

このコロナショックを契機に、オンライン診療、e-ラーニングや Web トレーニングといった在宅サービス、情報共有アプリ、ICT 決済や生産現場でのロボテックスなどのイノベーション、大都市から地方への人や企業の移転といった大きな社会変容や行動変容が一気に巻き起こる可能性があります。

既に、外出自粛や休業要請、逼迫（ひっばく）した感染予防資材の確保など直面している課題解決に向け、宅配サービス、テイクアウト、ネットショッピング、マスク製造などへの新技術や異業種参入といった新たなサービス・商品提供の動きが近隣をはじめ府中市内でも起きつつあります。

また、コロナ収束後においては、行動抑制によるコロナストレスの反動として、「人と人とのつながり」「自由に買い物や旅行、遊ぶことへの渴望」は大きな波が来るのではないかと考えられます。

本計画の策定時点では、将来への影響を正確に見通すことはできませんが、喫緊の課題に対応するとともに、府中市が持続的に発展するためには、コロナ収束後の再生復活も見据えた布石を講じ、変化の波に対応していくことが重要だと考えられます。そのため、本計画を始めとした各種計画は、情勢変化に応じて適切に見直していく必要があります。

2. 府中市の現状と課題

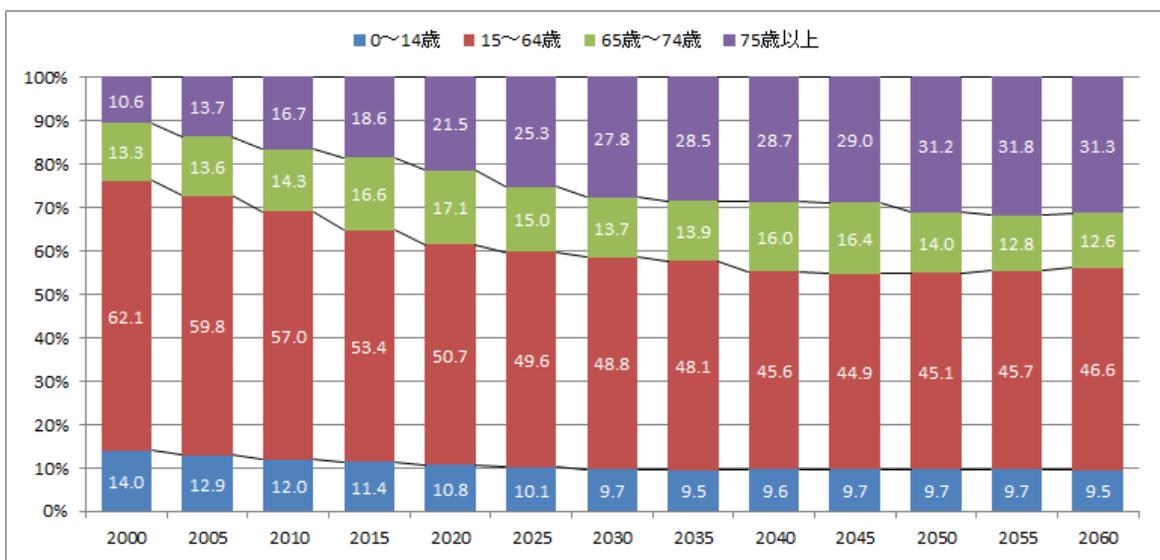
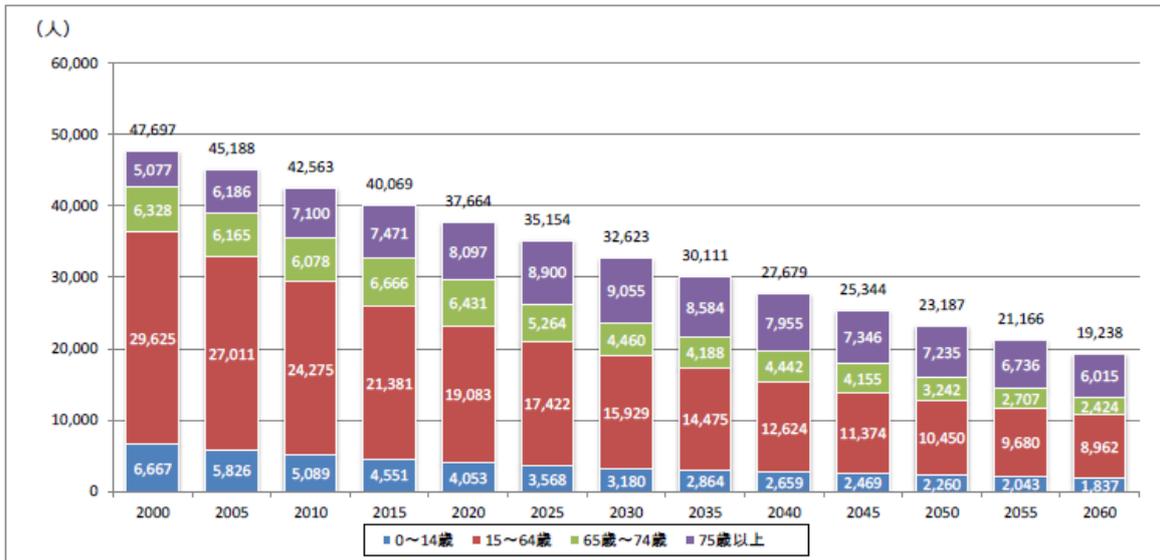
(1) 人口

①総人口の動向

◇平成 27（2015）年に 40,069 人であった府中市の人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和 27（2045）年に 25,344 人（14,725 人減）になるとされています。

◇次に人口構造からみると、生産年齢人口（15 歳から 64 歳まで）の減少が顕著となっており、労働力が不足することが現実のものとして突き付けられています。一方で、老年人口（65 歳以上）は増加しており、令和 2（2020）年にピークを迎え、団塊の世代の高齢化に伴い、特に、令和 7（2025）年は 75 歳以上の人口の割合が増えることが予測されています。

【年齢 4 区分人口の推移】

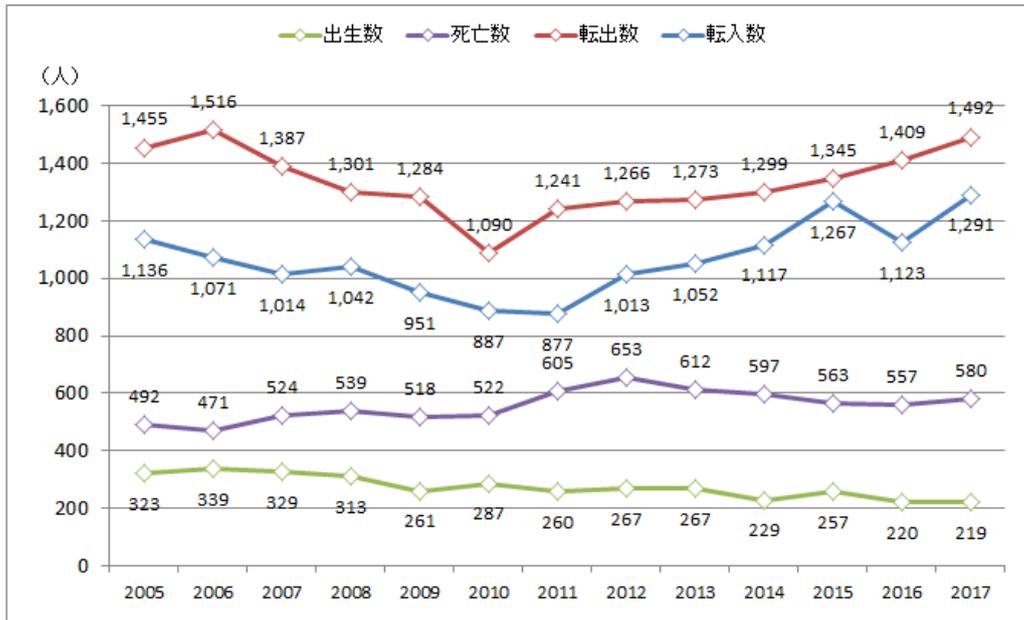


【資料】総務省「国勢調査」、推計値は国立社会保障・人口問題研究所による推計人口

②出生・死亡数、転入・転出数の推移

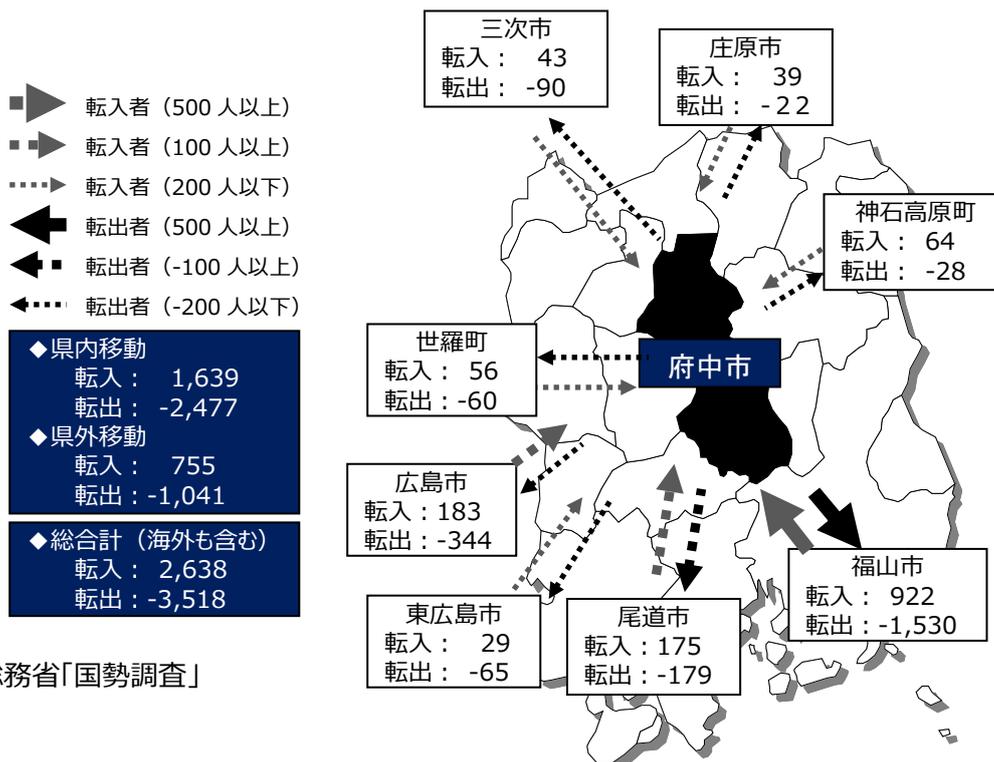
- ◇自然増減は、老年人口の増加に伴い、死亡数が出生数を上回る自然減が続いています。
- ◇社会増減については、転出超過による社会減が続いていますが、直近では転入数が増加しており、転出超過数は少なくなっています。
- ◇転出・転入先では、平成 22（2010）年から平成 27（2015）年にかけての 5 年間の転出・転入先をみると、転入、転出先ともに隣接する福山市が最も多くなっています。

【出生・死亡数、転入・転出数の推移】



【資料】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

【周辺自治体との人口移動の状況（2010年から2015年にかけての5年間の主な転入・転出先）】

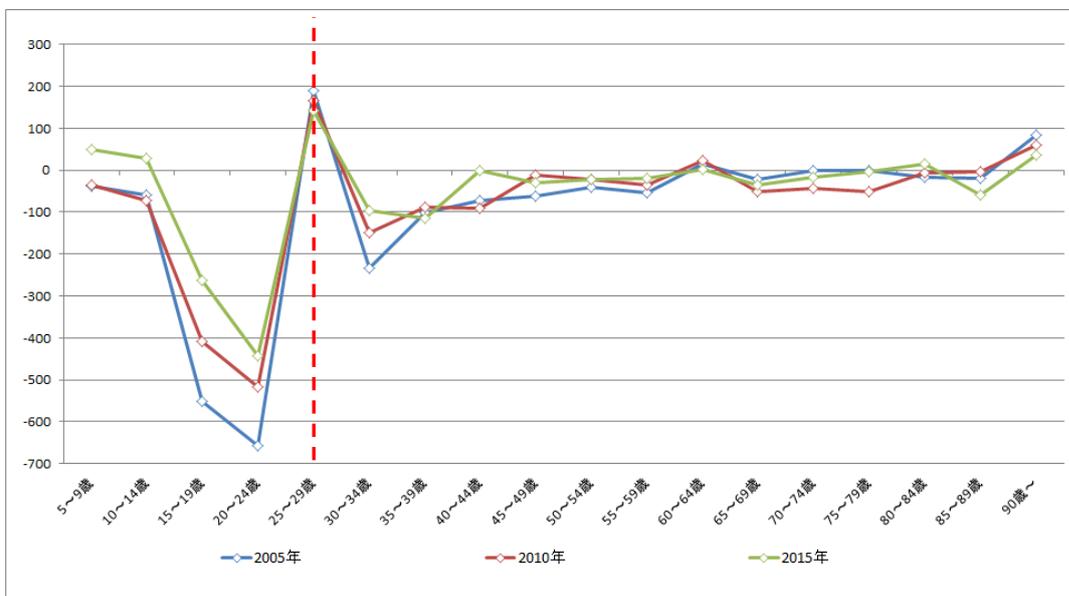


【資料】総務省「国勢調査」

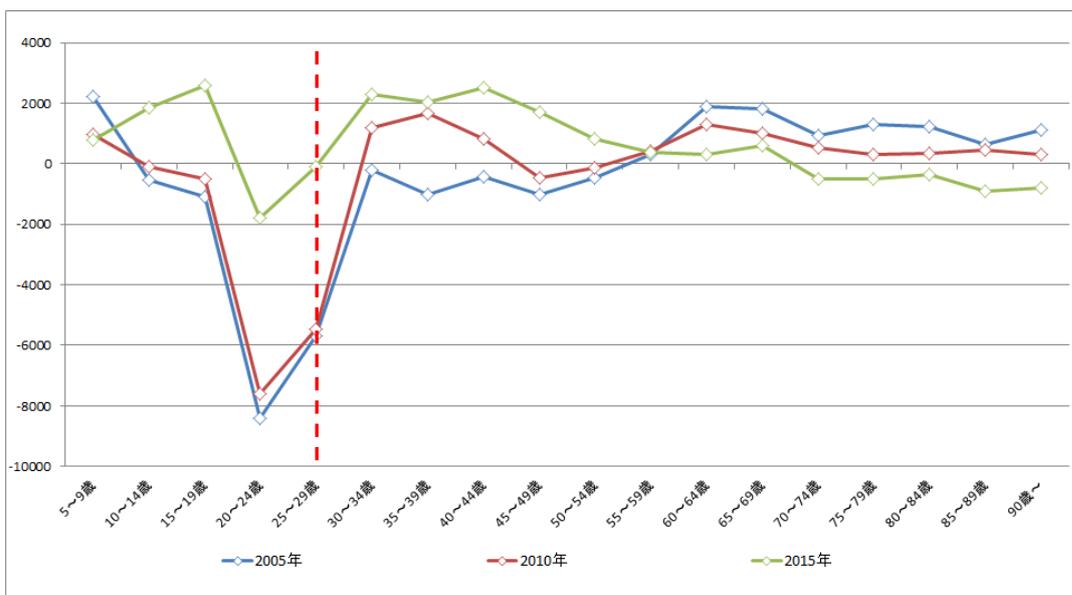
③年齢階級別の人口移動の長期推移

- ◇府中市の年齢階級別の人口移動（純移動）を長期動向でみると、「15～19歳」「20～24歳」の転出超過数は減少傾向にはありますが、依然として転出超過の傾向は顕著で、若い世代の進学に伴う転出の影響などが考えられます。一方、「25～29歳」が転入超過となっており、若い世代の就業等による転入が影響しているものと考えられます。
- ◇府中市と広島県全体とを比較すると、府中市は「25～29歳」で県全体よりも転入超過が高い値となっており、若い世代の就業地としてのポテンシャルが県内でも高いことが認められます。
- ◇一方、「30～34歳」以降の若年層では県全体では近年転入超過の傾向あるものの、府中市では転出超過が続いており、当該若者の定着を促進する施策が必要となっています。

■ 府中市の年齢階級別人口移動の推移



■ 広島県の年齢階級別人口移動の推移



【資料】総務省「国勢調査」

【表の見方】

ここで示している 5 歳階級別年齢層の人口移動（純移動）は、国勢調査による市内と市外の人口移動の差し引きが 5 年後に何人であったかを示しています（死亡した人数は「都道府県別生命表」を用い調整済み）。

例えば、図の「25～29 歳」については、「5 年前には市外にいたが調査時点で府中市にいる人」（転入してきた人）から「5 年前には府中市にいたが調査時点で市外にいる人」（転出した人）を引いた人数がプラスの数値となっており、「転入超過だった」ということを示しています。

④外国人人口の推移

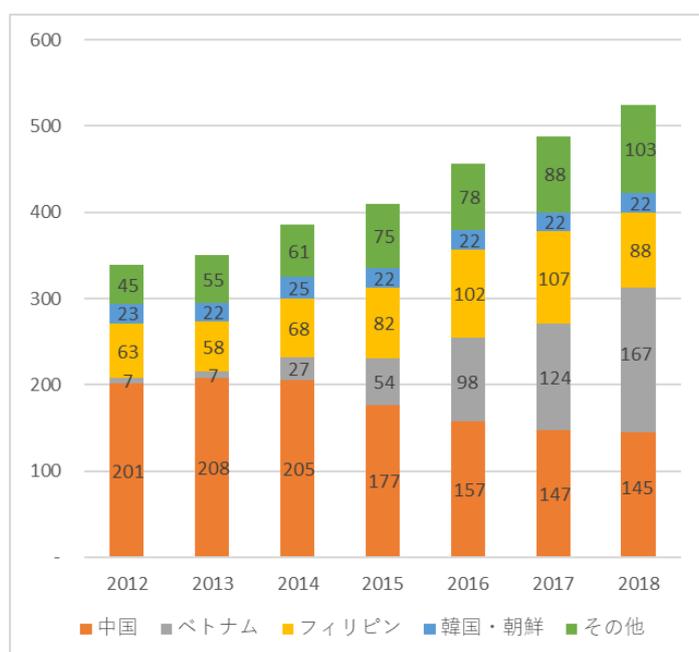
◇平成 30（2018）年における府中市内の在留外国人が 525 人となっており、周辺圏域と同様に年々増加しています。国籍別にみると平成 24（2012）年から平成 29（2017）年までの間は中国からの在留者が最多でしたが、2018 年はベトナムからの在留者が最も多くなっています。

◇外国人人口の増加に伴う受入環境の整備を柔軟に進める必要があります。

【外国人人口の推移】

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
府中市	339	350	386	410	457	488	525
福山市	6,381	6,405	6,637	7,409	8,020	8,765	9,363
尾道市	1,657	1,565	1,723	2,103	2,483	2,513	2,714
三原市	1,364	1,423	1,573	1,803	1,988	1,996	2,100
三次市	453	466	464	492	517	541	629
庄原市	293	278	338	326	363	374	394

（出典：法務省 在留外国人統計）

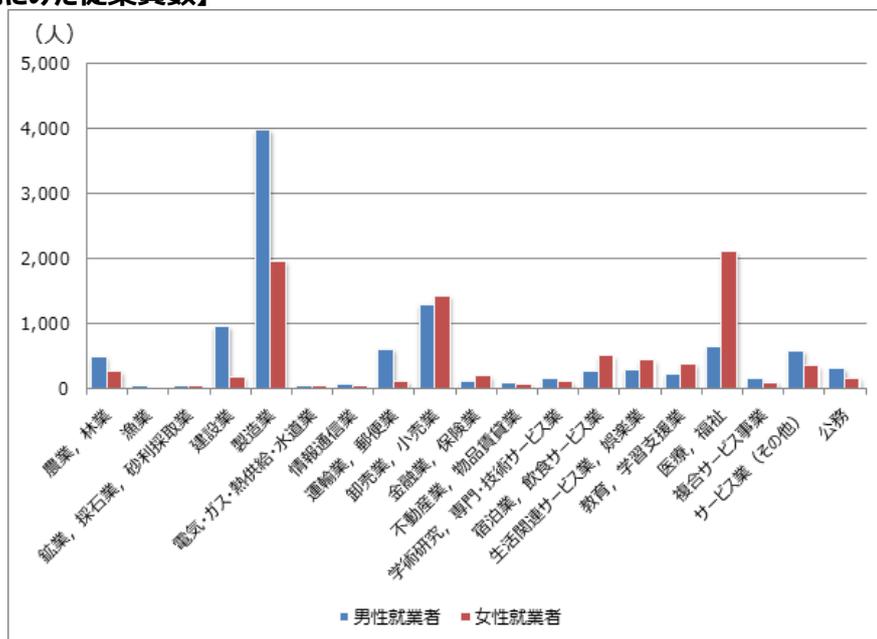


(2) 産業

①産業別にみた従業員数

- ◇産業別では製造業が突出して高く、それ以外で男女とも 1,000 人を越えたのは卸売・小売業のみです。女性は、医療・福祉が 2,000 人を越え、製造業、卸売・小売業が多くなっています。
- ◇古くからものづくり産業のまちとして発展してきた府中市は製造業に特化した産業構造となっていますが、生産年齢人口減少に伴う人材不足やリーマンショック以降の景気後退により、企業数が減少を続けており、販路開拓や新産業の創出といった新たな産業活性化策が必要となっています。

【産業別にみた従業員数】

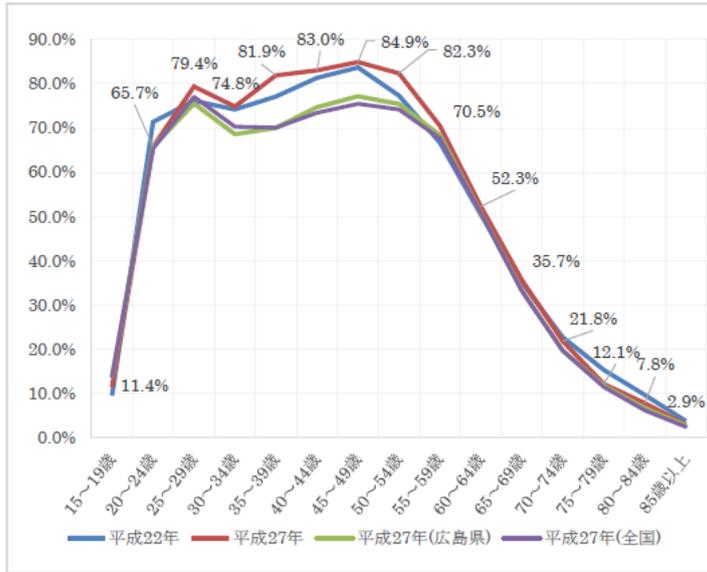


②女性の労働力

◇女性の就業率は、25歳から74歳までの就業率が上昇しており、全国的にみられる「M字カーブ（結婚・出産期の就業率の低下）」が緩やかな傾向となっています。

◇こうした働く女性が多いまちの特性をふまえ、働きながら子育てのできる環境整備等の支援策が必要となっています。

【女性の就業率（広島県・全国との比較）】

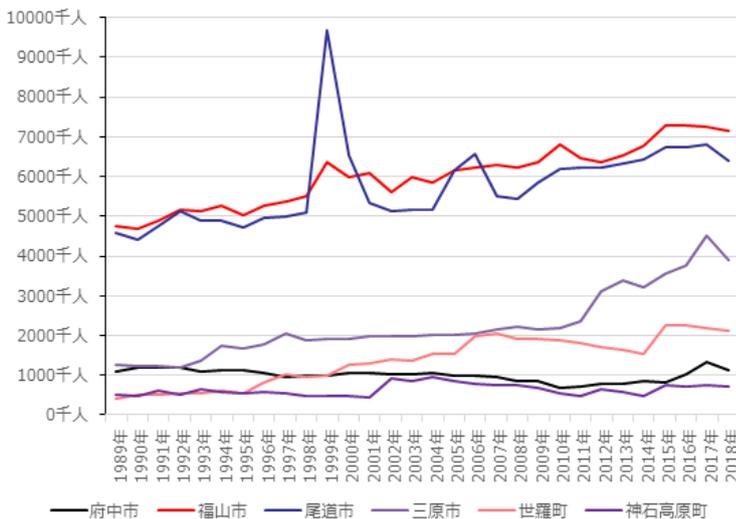


③観光振興

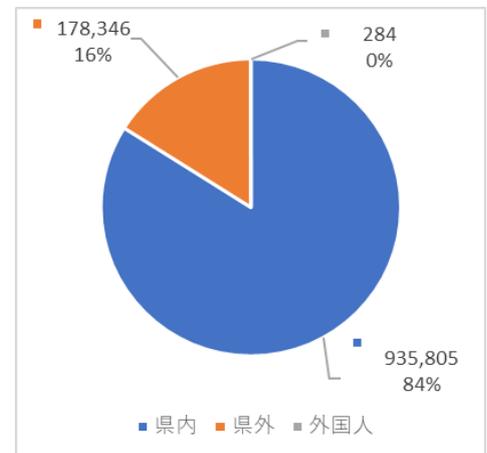
◇府中市を訪れる観光客数は、短期的には道の駅の開業等による増加や、平成30年7月豪雨災害に伴う一時的な減少もありますが、長期的な傾向を見れば100万人前後での推移となっています。

◇府中市を訪れる観光客は、府中市内を含め県内からの人が8割以上を占めており、広島県全体と比べ、県外客の割合が低く、特に、府中市を訪れる外国人観光客は1千人未満と府中市の総観光客全体の1%にも満たず、近年急増しているインバウンド需要を取り込む施策、魅力づくりが急務となっています。

【府中市及び備後圏域観光客数の推移】



【観光客の発地別内訳（2018年度）】



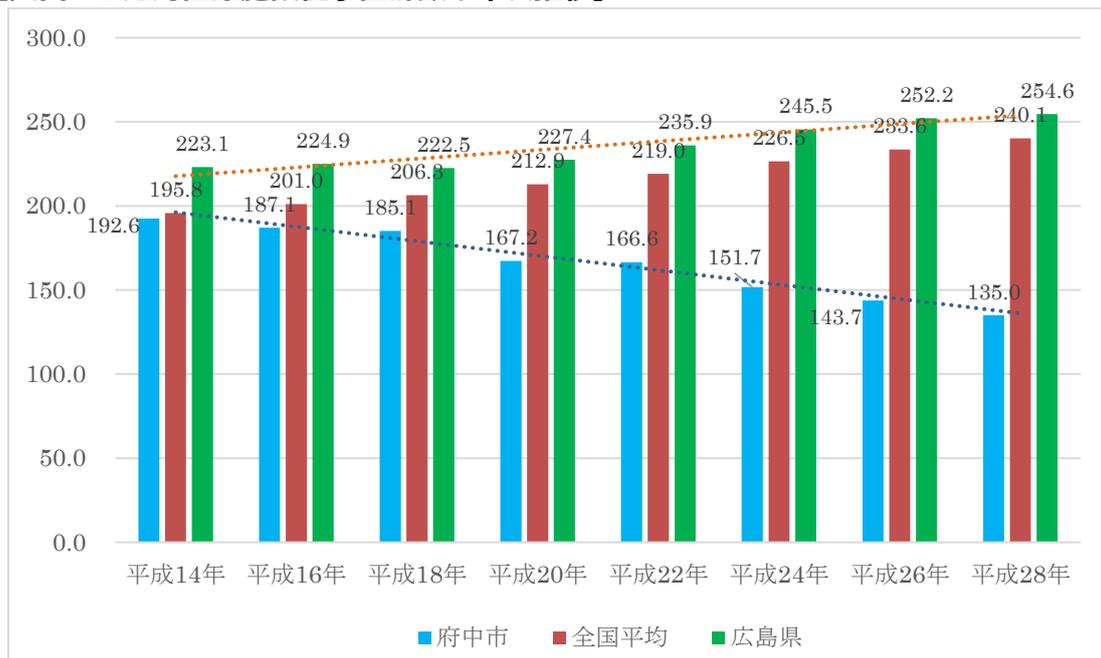
(3) 地域医療

①地域医療の現状

◇府中市の医師数は、減少が続いており、人口 10 万人当たりの医療施設従事医師数は、平成 14 (2002) 年では広島県平均と本市との差は 30 人程度であったものが、平成 28 (2016) 年には約 120 人にまで拡大するなど医師不足が深刻化しています。

◇府中市病院機構の勤務医数の減少、開業医の高齢化と後継者不足、無医地区等の増加といった地域医療体制上の課題を抱えており、医療サービスの提供を維持するための施策が必要となっています。

【人口 10 万対医療施設従事医師数の年次推移】



「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省)

※府中市の数は、基準日現在の住民基本台帳人口から算出。

注) 平成 14 年の数値は、府中市と甲奴郡上下町の合計から算出

【府中市内の医療機関に従事する医師数の推移】



「医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省) から

注) 平成 14 年は府中市と甲奴郡上下町の合計

3. 府中市の特性(強み)

(1) 歴史に裏打ちされ、時代の面影が折り重なっているまち

大化の改新後の7世紀後半から8世紀前半にかけて、都と北部九州を結ぶ古代山陽道が整備され、府中市には備後国（現在の広島県東部）を統括する行政府「国府」が府中市街地に置かれました。備後国府は奈良時代から平安時代末までの約500年間にわたって備後地域初の地方都市として機能し、政治・経済・文化の中心地として栄えました。その後の中世以降も人や物の集積地としての歴史を重ね、明治時代以降、工業化や世界的な需要の高まりにより各種産業が花開き、現在の中心市街地が発展していきました。こうした古代山陽道や国府由来の地割が今に息づき、明治以降の近代産業が発展する過程で築かれてきた、職と住が近接した町並みや、当時をしのぶ建物は、初めて訪れる人もどこか懐かしいと感じるレトロな雰囲気演出しています。

上下地域では、江戸時代に代官所が置かれ、幕府直轄地として繁栄し、また、山陰地方と山陽地方をつなぐ石州街道を通じ、周辺地域の特産物の集散地として賑わった商業のまち、豪商のまちとしての当時の風情が、“白壁の町並み”として今も残されています。

本市には、「国府」と「天領」という2つの本物の歴史の裏打ちがあり、近世から明治・大正・昭和の時代の移ろいを感じさせる佇まい、さらには古いだけでなく現代・未来につながる産業の息吹を体感できるという、他の都市にはない独自の個性を持っています。

(2) 産業が集積する「ものづくり都市」

本市では、江戸時代の頃から「藍」、「桐」、「こんにやく」、「煙草」などの農林産物の集積地として商業が盛んになりました。それに伴って集散物を加工する機能が要求され、明治時代から大正時代の近代化を転機に、「繊維」、「木工」、「食品」などの工業が盛んになり、人情味豊かな中に進取の気性を持った人々の努力によって、家内工業から重化学工業へと多彩な産業が発展してきました。

そうして、技術と精神が脈々と受け継がれ発展してきた本市には、府中家具、府中味噌などの伝統産業から、国内をリードする繊維産業、非鉄金属ダイカスト製品、旋盤用チャック、ラジコンヘリコプター、ラバータイル、テルペン化学などグローバルに活躍する先進技術を駆使した製造業まで、各分野の第一線で活躍する多数の企業があります。その事業規模も、大規模生産から匠の技が生きる中小零細企業まで多様性に富んでいます。また、令和元（2019）年時点で創業100年を超える企業が61社あり、これは広島県全体の100年企業のうち約7.1%にもなります。県内の人口規模で約1.4%に過ぎない本市が、これだけ多くの100年企業を有することは、本市産業の歴史の深さとポテンシャルの高さを物語る一つの事実として表れています。その一方で、新たな産業分野へ挑戦する起業家も数多く輩出しています。

本市は、人口4万人程度の小都市ですが、ものづくりの長い歴史と匠の気概、世界に通ずる高い技術力を持った様々な業種業態が集積するなど、他の新興工業地帯・工場だけのものづくりとは異なる、「本物のものづくり都市」だと言えます。

(3) 子育て・教育のまち

府中市では、市内に縫製や木工といったものづくりの事業所が多くありました。女性がそういった事業所に勤めたり、勤めていない女性も家庭内で内職作業を請けたりという社会で、女性が働くということは特別ではないという意識が根付いています。

家庭内の内職は減ってきましたが、そんな母親をみて育った子供たちが大人になり、就職や子育てを考えたときに、親世代が男女ともに仕事と家庭の両立を考え、祖父母世代や地域が支えようと考える風土が培われています。そういった風土からくるニーズに合わせ、行政も民間も早くから保育環境の充実を図ってきました。

市内保育所では待機児童ゼロの実績を続けており、子供と子育て世代を支援する児童館「府中市こどもの国」の設置や、中学校・義務教育学校卒業までの医療費の助成制度、妊娠から出産、子育てまでを切れ目なく支援する体制の整備等の施策と合わせ、現在では働く女性だけでなく、子育て世代全体に優しい環境が整っており、まさに「働きながら子育てが叶うまち」となっています。

また、教育の分野においても、平成16(2004)年から小中一貫教育を導入し、平成29(2017)年には中四国地方で初となる「義務教育学校」と「併設型小中学校」に市内全校が移行し、「中一ギャップ」の解消や新教科の創立など先駆的な教育活動が展開できるようになっています。

また、市内全10校にコミュニティ・スクールを導入し、地域住民が学校運営に参画する取組を行っています。地域人材や地元企業とともに子供たちの育成にあたっており、今では親よりも子供の方が地域や地元企業に詳しくなり、積極的に地域課題の解決に取り組むなどの事例も生まれています。令和元(2019)年には、「全国コミュニティ・スクール研究大会」を本市で開催し、本市の先進的な取組が全国に認知され、高い注目を集めています。

市内には、高い技術力を持ちグローバル展開する企業が幾つもあります。通学途中に見る工場の門扉の向こうは世界と繋がっていることを9年間の教育課程に連結させることで、府中市を「生きる場所」「住む場所」「帰る場所」に選び、この地で幸せを築こうとする企業家や若者たちの挑戦を、義務教育時代の「原風景・原体験」に形成できるのも小中一貫教育制度とコミュニティ・スクールが開く可能性です。

地方都市が一貫した理念のもとに「人材の育成」から「人格の完成」を目指し、府中市では小中一貫教育を中心に、幼保小連携、中高連携、さらには地元産業界連携までも包み込む「府中教育 Unified・City (ユニファイドシティ)」構想を打ち立て、市民とともに、Society5.0時代を見据えた新たな「まちづくり・人づくり」の夢を描きはじめています。

市内のすべての小中学校で一貫教育を展開していることに加え、地域・企業と一体となったコミュニティ・スクールの仕組みづくりと実践を行っていることは、全国的にみても高い先進性とひとつづくりの実績として評価されており、小中一貫教育を基軸とした「幼保小連携」「中高連携」にも取り組むなど、常にトップランナーとしての進化を続けています。

（４）近接性、多様性のあるまち

本市では、都市的要素が揃う市街地から、わずかに移動するだけで豊かな自然環境に出会えます。市街地を歩けば、時代の面影が残るまちの風情を感じながら、買い物、医療、行政などといった生活に必要なサービスも受けることができます。その一方で、川辺や山々などの豊かな自然や地域の皆さんによって維持された田園風景は、心休まる空間であるだけでなく、水源の涵養（かんよう）や景観の保全といった様々な恩恵を我々にもたらしています。

また、本市はその立地から、中核市、観光都市、山や海、空港・新幹線駅へも1時間圏内という特徴があります。このことは、市民が仕事やショッピング、レジャーをするにも、企業が経済活動を行うにあたってもちょうどいい距離にあるといえます。また、市外在住者にとっても、本市との関係を構築する際、車や電車、バス、航空機等のような手段でも容易に訪れることができるちよūdいい場所にあるといえます。

仕事や暮らし、働き方などに対する価値観が多様化し、ICT化が進展する現代においては、都市と自然の近接性・多様性があるという特徴は、府中市で暮らすことで時間的なゆとりや自然環境の豊かさを享受しつつ、ビジネス活動においても、市外や大都市ともつながっていくことが可能になるという大きな強みとして、本市が持つ地理的優位性だと言えます。

都会じゃないけど田舎でもない。住むにも、働くにも、遊ぶにも“ちよūdいいまち”、それが府中市です。

（５）やさしさがあふれ“いこる”熱量が高いまち

本市は、市民同士がふれあう、人情豊かな地域社会があり、また、“いこる”人材が活発に活動する市民活動の盛んなまちです。

各地区では、町内会や地区社会福祉協議会といった地域に密着した団体が設立され、それぞれの地域でコミュニティ活動のほか、スポーツや文化活動、郷土芸能の継承など、地域住民の交流を促進する取組が積極的に行われています。また、医師会、歯科医師会など市民の医療保健活動への積極的な協力や市内企業の社会貢献活動など、様々な団体や企業がともに市民の健康づくりやまちづくりに積極的に関わっています。

NPOやまちづくり団体は、それぞれが持つ知識や技術を結集し、また、市外からの力も取り入れ、府中市ファンを増やししながら、新たなイベントを開催したり、事業を充実・発展させたりするなど、本市に賑わいと魅力を生み出す活動を盛んに行っています。

人口減少に伴い地域のコミュニティ機能やまちの活力の低下が懸念されている中、こうした市民同士が繋がり支え合うことや、“いこる”人材が存在することは、今後起こりうる様々な地域課題の解決に向けて、市民自らが協力して取り組んでいくことができる府中市が持つ強力な地域力です。

“いこる”とは、備後地方の方言で「炭に火が熾(おこ)り赤々と燃えている状態」の意。“いこった”炭は、やすやすとは消えず、また、周りの炭も“いこらせて”いくことから、本計画では、まちづくりの灯(ひ)を起こすことや起こす人、そうした人たちの熱量にあてられてまちづくりの灯が次々と広がっていく様を表す意味で使用しています。

まちの未来構想

まちの将来像

将来像を実現するための基本目標

第1章 まちの将来像

1. 変化をチャンスに！個性を強みに！そして好循環へ！

序論において述べてきた、社会潮流の変化、本市の現状と課題を整理すると、本市は

- ◇ 生産年齢人口の減少(労働力の不足)、超高齢社会といった人口構造の変化への対応
- ◇ 20歳前後、30歳代を中心とした転出超過傾向の抑制
- ◇ 本市の産業の中核をなす製造業の活性化や従業員の安定的な確保
- ◇ 医師不足が顕在化する中、将来にわたる地域医療サービスの維持・提供
- ◇ 自然災害や感染症などへの地域・企業・行政における対処能力の向上

など様々な課題に直面しています。

持続可能で活力ある未来を切り拓き、次の世代につないでいくためには、今まさに、重要な転換期を迎えており、

- ◇ 新たな社会潮流を的確に捉え、果敢に対応し、変化をチャンスに変えていくという視点
- ◇ こうした変化と本市の特性をうまく融合しながら、磨き上げ、強みとして活用していくという視点

を持つことが極めて重要です。

こうした中、社会全体を通じて生じている潮流の変化、なかでも

- ◇ ライフスタイルや働き方などの価値観の変化、若者世代を中心とした地方回帰志向の高まり
- ◇ 5G、AI・IoTなどICTの急速な進展
- ◇ デジタルトランスフォーメーションによる中山間地域の課題解決

は、本市にとって大きなチャンスになる可能性があります。

これらを踏まえると、本市は

- ◇ 多くの人を惹き付ける町並みの魅力があり、全国トップクラスの子育て・教育環境が整い、幅広い産業が集積していることから、価値観やニーズが多様化する中でも、様々なライフスタイルや働き方の実現を提供できる可能性があり、都市と自然の近接性・多様性がある地理的特性は、自然環境の豊かさを享受しつつビジネス活動を行うことができるという観点から、地方回帰志向に対する大きなアドバンテージであると言えます。
- ◇ また、ICTの進展、超高速・大容量、低遅延、同時多数接続が可能となる5Gの普及は、市民生活や企業活動において、大都会が必ずしも優位と言えなくなる時代が来るということであり、本市の持つ「ものづくり産業」「子育て・教育」「まちの魅力・賑わいづくり」に磨きをかける上で絶好のチャンスであり、ICT分野での積極的な取組の推進が新たなまちの強みになると言えます。
- ◇ 何よりも、人にやさしく、互いに支えあうコミュニティが残っており、市内に熱量の高い“いこる”人材が多いということは、大きな財産であると言えます。

という特徴を活かした未来づくりに取り組んでいく必要があると考えます。

そして、これからの本市は

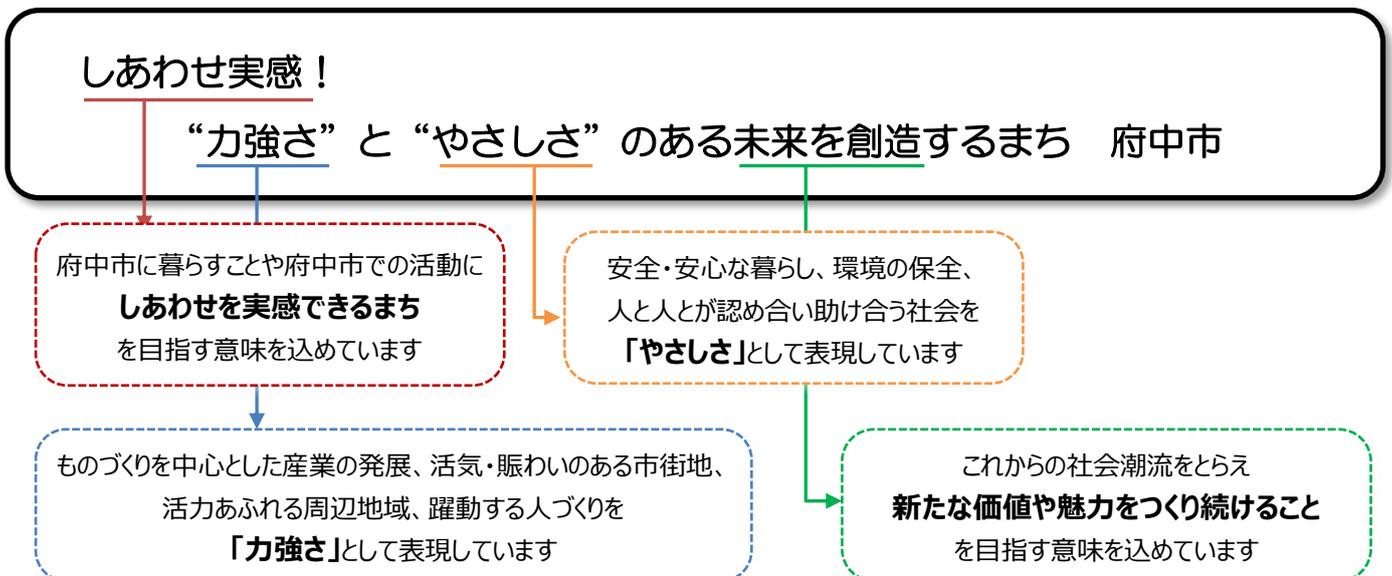
- 1 ものづくり産業、子育て・教育、まちの魅力、市内人材といった府中市の強みを伸ばしていく
- 2 官民挙げてICT都市ふちゅうの実現を強力に推し進めていく
- 3 市内外へ府中市の魅力を発信し、住民満足度を高め、多様な人材やビジネスチャンス呼び込む

といった取組により、好循環を生み出していきます。

2. まちの将来像

このように本市が持つ「強み」と「やさしさ」を磨き、これからの社会潮流と掛け合わせることで、新たな魅力をつくり続ける、「未来」を創造するまちづくりに取り組み、本市での暮らしや活動に誰もが「府中市らしいしあわせ」を実感でき、市民一人ひとりが本市への愛着と誇りを持ち、「住み続けたい」気持ちを高めるとともに、市外の人たちの力を積極的に呼び込むことで活力や賑わいを創出し、「訪れたい」「住みたい」と思われる魅力あふれるまちとなることを目指します。

以上のこれからのまちづくりへの想いを込め、次のとおり第5次府中市総合計画の将来像を掲げます。



また、この将来像を計画期間満了時（2030年3月）に実現させる未来への決意を込めて、

本総合計画の名称を「しあわせ府中^{にーまるさんまる}2030プラン」とします。

府中市の現状・課題

人口	人口構造の変化・労働力人口の減少・外国人人口の増加
産業	製造業に特化したまち・女性の活躍・観光振興の必要
医療	医師不足・医師の高齢化

この他にも

中山間地域の過疎化による地域力の減退
 農業の担い手の不足
 健康寿命の延伸（フレイル予防等）
 共生社会の推進
 …… など

これからの社会潮流

- 人口減少・超高齢化
- 人生 100 年時代
- 価値観の変化
- Society5.0
- 働き方改革
- SDGs
- 協働社会の進展
- 関係人口
- 多文化共生社会
- 災害激甚化・感染症

府中市らしさ・強み

- 歴史文化資源**：文化財や歴史的背景による情緒溢れる町並み
- ものづくり産業**：産業集積・技術力・雇用吸引力
- 子育て・教育**：待機児童ゼロ・小中一貫教育・コミュニティスクール
- 近接性・多様性**：市街地と田園の調和・ちょうどいい距離感
- 人のやさしさ・熱量**：支えあう地域の連帯感・盛んな市民活動



力強さ

府中市らしい強みを活かした産業やまちの「しあわせ（活力・賑わい）」の創造

やさしさ

府中市らしい住みよさを活かした地域社会の「しあわせ（つながり・共生）」の実現

府中市での暮らしや府中市での活動に、誰もが「しあわせ（安心・元気・笑顔）」を実感

住み続けたいまち

訪れたい、住みたいまち

「選ばれるまち府中市」の実現

第2章 将来像を実現するための基本目標

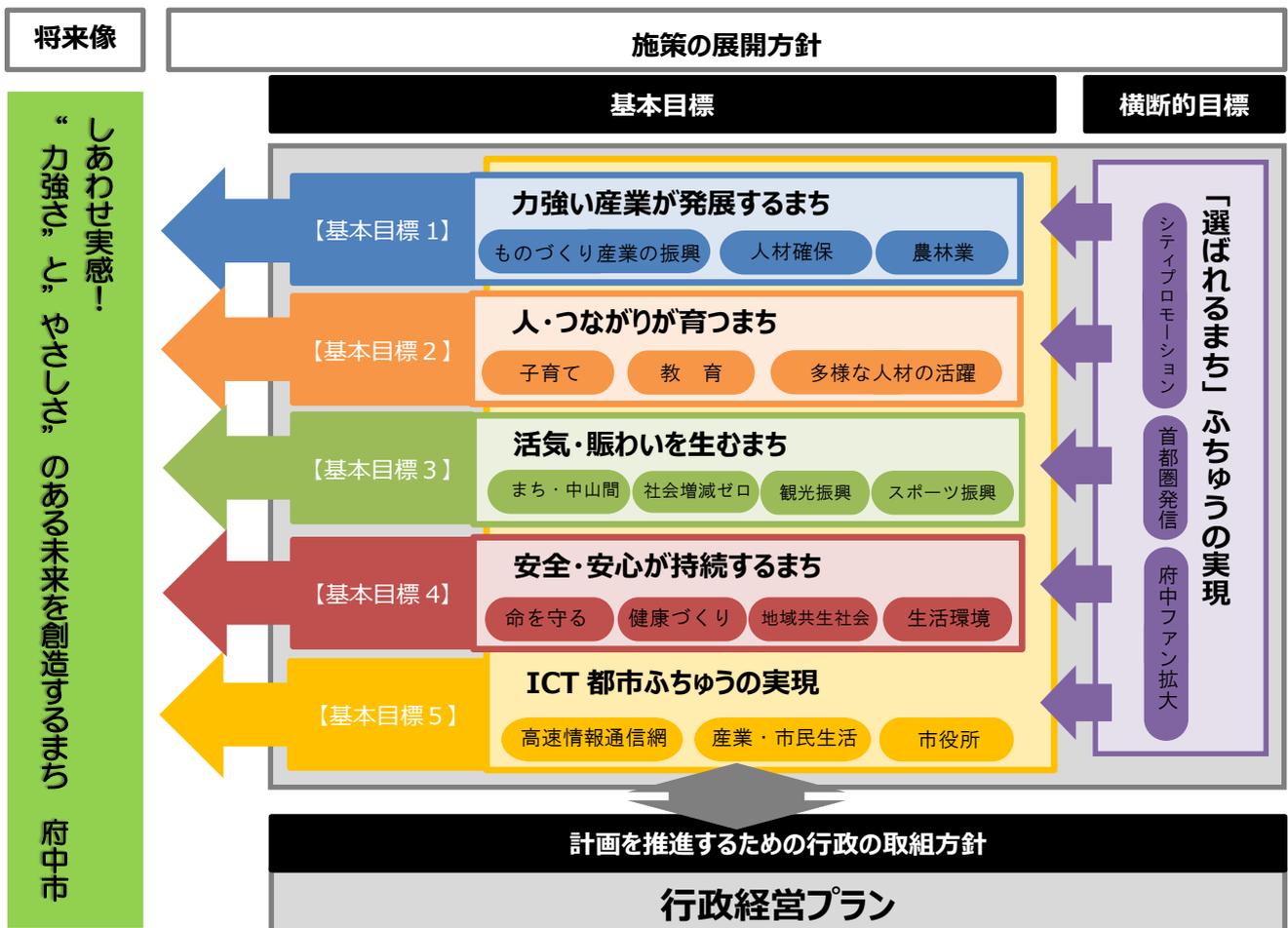
1. 施策の展開方針

府中市の目指す新たな将来像を実現するために、今後様々な施策を講じていく必要があります。しかしながら、それが個別の事業ごとにバラバラに展開されたのでは、その効果は限定的なものに留まってしまいます。そこで、将来像を実現するために必要となる要素ごとに基本目標を定め、それぞれの施策の方針を示します。その基本目標から方針までを市民、団体、企業、行政が皆で共有し、同じ方向を向いて取組を進めることで、その効果を最大限発揮することを目指します。

その要素については、「力強い産業が発展するまち」「人・つながりが育つまち」「活気・賑わいを生むまち」「安全・安心が持続するまち」「ICT 都市ふちゅうの実現」の5つとします。

これらの各要素すべてにおいて基本目標を定め、その達成に向けて政策の分野ごとに取組を展開していきます。しかしながら、人や財源には限りがあります。限られた資源を効果的に投じていくために、他の要素や政策分野への高い波及効果が予測できるもの、将来像の実現に向けて特に加速化が期待できるもの、喫緊の課題として対応するものなどについては、重点的に取り組むべき政策分野として定めます。

これら5要素の横断的目標を『「選ばれるまち」ふちゅうの実現』とし、また、行政運営の土台となる組織、人材、財務などの取組方針を示す「行政経営プラン」を策定し、施策を推進します。



2. 基本目標

【基本目標1】 力強い産業が発展するまち

本市のものづくり産業の優位性を活かした競争力の強化や人材確保を図るとともに、地場産業の新事業展開や新たな産業創出など、産業が活性化し、発展するまちを目指します。

農業においては、農地集積や担い手の育成を図るとともに、生産性の高い基盤や農地の効率的な活用、新たな産品、特産品の開発などによるビジネス化の可能性を追求します。

【重点政策テーマ】

- 「ものづくり」のブランド向上や新産業の創出を進めるとともに、商業をはじめとした中小企業等の活性化を図ります
- 多様なものづくり産業が集積している強みを活かして、市内外から人材の確保を図ります
- 「農」の持つ可能性と新たな価値を追求するなど、未来につながる農林業の振興を図ります

重要目標達成指標（KGI）	現状値	目標値
製造品出荷額等	1,892 億円（2017 年度）	2,086 億円（2029 年度）
農業産出額	14.4 億円（2017 年度）	15.5 億円（2029 年度）

〔基本目標2〕 人・つながりが育つまち

子供を産み、育てやすい切れ目のない支援体制づくりを進めるとともに、幼少期から子供や家庭をもつ希望の大切さを伝え、次代を育みやすい環境を整えます。

児童生徒の確かな学力を身に付け、社会を生き抜く力を育むとともに、家庭や地域、学校が連携を図りながらふるさとに誇りや愛着をもった人づくりを進めます。

また、幅広い市内外の幅広い人々が文化活動や生涯学習を通じてまちの魅力を磨くことができ、お互いを認め合う社会づくりを進めます。

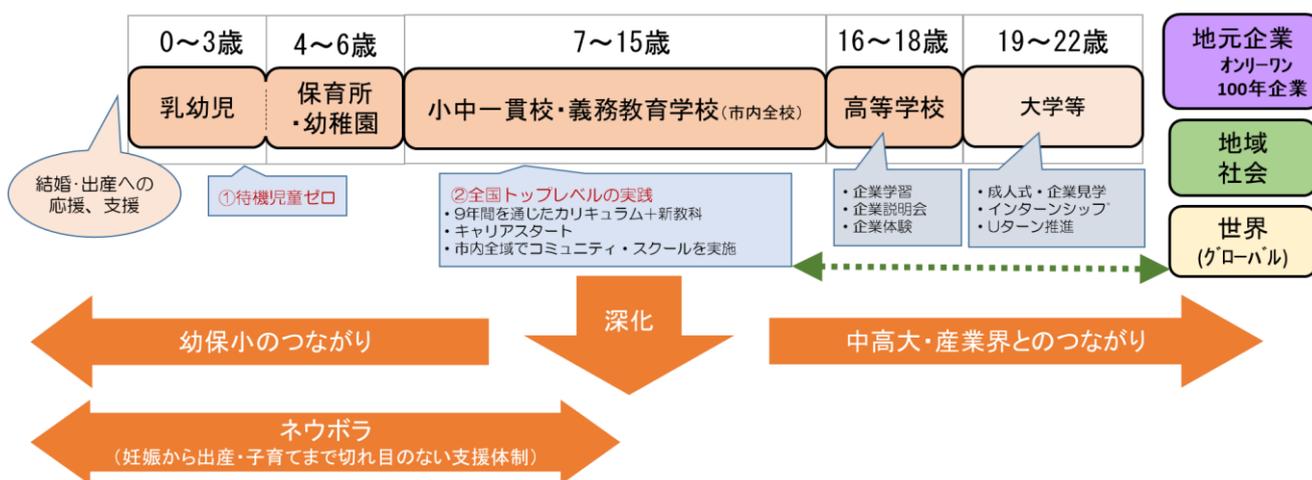
【重点政策テーマ】

- 安心して子供を産み育てることができる環境をつくります
- ふるさとを愛し、地域社会や世界で生き抜く力をもった子供たちを育成します

重要目標達成指標 (KGI)	現状値	目標値
子育てに関する安心感（4か月児健診時アンケート）※	90.4%（2019年度）	96%（2029年度）
全国学力・学習状況調査（質問紙調査）「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対し「当てはまる」と回答する生徒（中3）の割合	52.6%（県平均50.0%） （2019年度）	県平均+5pts

※ 4か月児健診時に実施するアンケート質問「産後退院してから1か月程度、助産師や保健師等からの指導やケアを十分に受けることができたか」に対する回答の平均値

■ 府中市の子育て・教育の姿



[基本目標 3] 活気・賑わいを生むまち

地域資源を活かしたまちなかや中山間地域の新たな活気や賑わいづくりを進めるとともに、市民に愛され、市外在住者からも選ばれる取組を推進します。また、持続可能な都市基盤の維持や道路ネットワークの整備を進めるとともに、公共交通網の利便性の向上を図ります。

さらに、豊富な歴史資源や文化、ものづくり、食を活かす観光戦略を進めながら、観光振興の恩恵が地域経済に寄与できるような仕組みづくりを進めます。また、スポーツを「する」「見る」「支える」ものとして、スポーツによる地域の賑わいを創出します。

【重点政策テーマ】

- 市民・団体・企業・行政の総力で地域の魅力を向上し、賑わいと活力を創出します
- 市民に愛され、市外在住者からも選ばれる「社会増減ゼロ」のまちを目指します
- 歴史・文化・ものづくり・食などの多彩な地域資源を活かした観光振興により、地域を活性化します
- すべての人がスポーツを楽しめる環境を整備するとともに、スポーツによる地域の賑わいを創出します

重要目標達成指標 (KGI)	現状値	目標値
社会増減	▲201人 (2017年)	±0人 (2029年)

[基本目標 4] 安全・安心が持続するまち

地震や風水害などの自然災害や犯罪から住民の生命や財産を守ることができるよう、医療体制の維持・充実を図るとともに、「自分の身は自分で守る」を基本に、自分でできないことは地域で助け合い、地域でできないことは行政が支援するなど、安全・安心なまちづくりにみんなで取り組めるまちを目指します。また、感染症などの新たなリスクに対する備えも進めます。

すべての市民がいつまでも健康でいられるよう、フレイル予防や疾病予防など健康増進を高める取組を拡大し、子供や高齢者、障害者など生活弱者が地域に支えられ、住み慣れた地域で過ごし続けることができる環境づくりを進めます。

上下水道やごみ処理場など生活環境基盤の維持や整備を進めるとともに、増加する空き家等の適正管理や有効活用を図り、社会情勢に応じたまちづくりを進めます。

【重点政策テーマ】

- 自然災害をはじめとした様々なリスクから命を守る取組を推進します
- 生涯を通じた市民の健康づくりを推進します

重要目標達成指標 (KGI)	現状値	目標値
活性化していると認められる自主防災組織 (活性化組織数/自主防災組織数/町内会数)	29/66/70 (2018年度)	70/70/70 (2029年度)
健康寿命	男性 77.97歳、女性 84.49歳 (2016年度)	平均寿命の増加を上回る健康 寿命の増加 (2029年度)

[基本目標 5] ICT 都市ふちゅうの実現

急速に進展する情報技術を本市の産業、暮らし、行政など、様々な分野に活かすため、5G等の高度情報基盤を整備するとともに、Society5.0 を見据えた、幅広い分野での未来技術の導入モデルを展開し、ICT 都市ふちゅうの実現を目指します。

【重点政策テーマ】

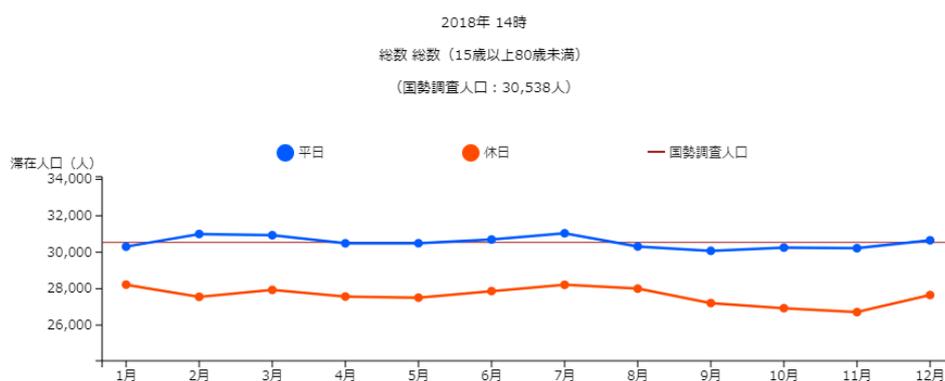
- Society5.0 を見据え、様々な分野での ICT 等の未来技術の導入を目指します

重要目標達成指標 (KGI)	現状値	目標値
マイナンバーカード普及率	13.3% (2019 年度末)	90.0% (2029 年度末)

横断的目標 「選ばれるまち」ふちゅうの実現

本市は、様々な分野において様々な魅力ある資源や特性を持ちながら、市内外の認知度が低いという課題を解決する必要があります。各分野の一貫した市内外への戦略的な情報発信、プロモーションを推進するとともに、首都圏での情報発信の強化や様々な人材や組織・企業等の有機的な連携を促進し、府中ファンの拡大を進めます。

重要目標達成指標 (KGI)	現状値	目標値
「15 歳以上 80 歳未満」「14 時」の滞在人口率	年間を通じ 平日 1.0 前後 休日 0.8~0.9 (2018 年)	年間を通じ 平日、休日ともに 1.0 以上 (2029 年)



【出典】

株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」
総務省「平成 27 年国勢調査」

【注記】

滞在人口率は、滞在人口（株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」夜間人口）で表される。

滞在人口とは、指定地域の指定時間（4 時、10 時、14 時、20 時）に滞在していた人数の月間平均値（平日・休日別）を表している。

(C) 2017 NTT DOCOMO, INC. & DOCOMO InsightMarketing, INC. All Rights Reserved.

基本目標 1 力強い産業が発展するまち



- 「ものづくり」のブランド向上や新産業の創出を進めるとともに、商業をはじめとした中小企業等の活性化を図ります
- 多様なものづくり産業が集積している強みを活かして、市内外から人材の確保を図ります
- 「農」の持つ可能性と新たな価値を追求するなど、未来につながる農林業の振興を図ります

基本目標 1 力強い産業が発展するまち

1-1

重点政策

「ものづくり」のブランド向上や新産業の創出を進めるとともに、商業をはじめとした中小企業等の活性化を図ります

■ 府中市の強み

- 本市は、古代に備後国府が置かれ備後地域の文化・経済の中心となった都市的素地を持ちながら、中世以降近世を通じて盛んになった木工・繊維・醸造などの家内工業、明治時代以降の金属加工業や化学工業の隆盛によって、多様なものづくり産業で構成される内陸部工業都市として発展した歴史的背景を有しています。近年では、時代の変遷の中で常に各種産業が伝統と革新を持って進化を続け、古いまちなみと近代産業が共存しているという地域的特性があります。
- 繊維、木工、家具、食品、機械、金属、電子、航空など多種多彩な業種が集積しているほか、上場企業の大手製造業の本社や確かな技術力のある中小企業、100年続く企業から進取の気性による新興企業まで、他の地域には見られないほど産業が多様性に富んでいます。
- 非鉄金属ダイカスト製品などの技術力をもったオンリーワン・ナンバーワン企業が多数存在しています。
- ものづくりから飲食・小売・サービス業まで幅広い事業主による「一店逸品運動」などのユニークな取組が進められ全国大会でもグランプリを獲得するなど独自のアイデアで活性化に挑む土壌があります。
- 備後府中焼きは、「備後府中焼きを広める会」を中心に各地でのイベントに出店され、本市を代表する食べ物として市の認知度向上に貢献し、市内外からの消費を促しています。

■ 府中市の現状・課題

- これまで本市の産業を牽引してきた製造業において、事業所数・従業者数が減少しており、製造品出荷額が減少しています。
- 設備の稼働率が向上しているものの、相対的に低付加価値製品の出荷が増え、合理化に向けた投資が滞っている可能性があります。
- 中小事業者を中心に、従業者や後継者候補が不足するなど、人材確保の課題が顕在化しています。
- 経済のグローバル化や新たな技術革新が進む中、市内企業の競争力の低下が危惧されます。
- 施設・設備の老朽化や事業の拡張に伴う一定の事業用地の需要がありますが、需要に適した用地が不足しており、事業所が流出してしまう可能性があります。
- 産業基盤を支える道路網整備の必要性や高速情報通信網の早急な整備が望まれています。
- 経営上の課題や技術的な相談事項について、アドバイスや支援を受けられるワンストップの相談窓口が必要とされています。
- 製造業に比べサービス業は、市場がその地域に限られることが多く、地域の人口規模・密度が生産性に及ぼす影響が大きいいため、人を呼び込み消費を促す仕組みが必要です。

基本施策と方針

1 企業の付加価値創出や競争力強化

- これまで培ってきたものづくり産業の基盤を活かしながら、グローバル化やデジタルトランスフォーメーションなどの経済情勢や社会潮流の変化に対応できる、新たな価値を創造し、地域経済を牽引する力強い産業の成長を推進します。
- 付加価値の高い製品開発や生産性向上を推進するため、多様な事業者の連携や先端技術に触れる機会の創出、相談窓口機能の強化などにより様々な企業ニーズに応えます。

主な取組内容

- 企業に対する窓口、相談機能等の強化
- 商品開発・技術開発・販路開拓等の支援
- 事業拡大促進
- サービス関連産業の生産性向上等の取組支援
- 産業用ロボット等の導入支援、人材育成拠点の設置 など

2 多様な創業と新事業展開

- 新たな創業・起業や地場産業による新事業への展開について、積極的にチャレンジできるよう、相談対応支援を充実するとともに、異業種間の交流機会をつくり、多様な産産連携を促進します。
- 空き店舗等の物件の有効活用を進めることにより、事業者の新たな事業機会の拡大につながります。

主な取組内容

- 起業に対する相談・支援の充実
- 販路拡大支援
- 異業種交流機会の提供
- 空き店舗・工場等の活用
- サテライトオフィスやコワーキングスペースの整備 など

3 産業発展の環境整備

- 産業活動の基盤となる道路網の整備を計画的に進めるとともに、事業用地の確保を検討し、また、5G等の高速情報通信網の整備を積極的に進めるなど、府中市での事業活動に魅力を感じられる環境を整備します。
- 産業の活力維持と発展のため、事業承継の円滑化や海外展開への支援を強化します。
- 新たな技術導入や商品開発にあたって、大学や公設試験場等の研究機関の技術や知見を活用できる環境を整備し、産学官連携による研究開発を促進します。

主な取組内容

- 道路網の整備
- 高速情報通信網整備（5G、ローカル5G）
- 産業団地造成の検討
- 事業承継の円滑化
- 産学官連携による研究開発 など

基本目標 1 力強い産業が発展するまち

基本施策と方針

4 中小企業・零細企業のニーズへの細やかな対応

- 府中市の発展の歴史を支え、今後の発展の底力となる中小・零細企業に寄り添い、挑戦する企業を後押しするため、経営課題の解決に向けた相談対応や金融支援、円滑な事業承継支援、人材育成支援など細やかな取組を進めます。
- 商工会議所や商工会、広島県、金融機関、専門家等と連携したネットワークの強化を図ります。

主な取組内容 ●企業に対する窓口、相談機能等の強化 ●効果的な事業承継への支援
●経営安定のための金融支援 ●ネットワークハブ機能の強化 など

5 消費を呼び込む魅力の創出

- 市民、地域、企業、行政が一体となって駅周辺や町並みの魅力を磨いて賑わいを生み出し、来街者を呼び込むことで、経済活動の促進を図ります。
- ものづくり産業を観光資源の一つと捉え、来訪者にとって体験が思い出づくりにつながるような仕掛けを構築します。また、来訪がビジネスチャンス拡大のワンステップとなるよう、バイヤーやクリエイターなどとの繋がりを通し、イノベーションや新たな消費拡大に繋がるための取組を進めます。
- ものづくりの価値を高め、支援するサービス業の集積を図ります。
- IT や ICT ツールを活用した販売促進、生産性向上への取組への支援を実施します。

主な取組内容 ●駅周辺の賑わい創出 ●ものづくり×観光、ものづくり×サービスの推進
●eコマース導入支援 など

関連計画

産業振興ビジョン／観光振興ビジョン／ランドデザイン



基本目標 1 力強い産業が発展するまち

1 - 2

重点政策

多様なものづくり産業が集積している強みを活かして、市内外から人材の確保を図ります

■ 府中市の強み

- 人口4万人のまちながら、繊維、木工、家具、食品、機械、金属、電子、航空など日本の縮図とも言うべき多種多彩な業種が集積しています。また、大企業から中小零細企業まで事業規模も多様性に富み、それぞれに匠の気概と確かな技術力を持っています。
- 本市の企業では従業員の定着率が高く離職率が低いという結果が出ています。(※出展：平成 29 (2017)年に実施した府中市事業所実態調査)
- 周辺圏域から通勤する従業者が多く、広域的にも就業人口の吸引力の高いまちとなっています。
- 女性の労働参加率が全国・県と比較して高く、結婚・出産による離職が少ない(M字カーブが緩やか)など、女性の働く機会が充実しています。
- 社会貢献、地域貢献にも熱心な企業も多く、コミュニティ・スクールやキャリア・スタート・ウィークといった企業と学校が一体となった取組により子供たちは市内の企業に幼少期からなじみ、その魅力を知ることができています。

■ 府中市の現状・課題

- 生産年齢人口の減少を背景として、中小企業を中心に労働力の確保が企業経営にとって大きな課題となっています。
- 多様で柔軟な働き方を取り入れることで、人材力の強化や高齢者や女性等の働く場の拡充が求められています。
- M字カーブが緩やかであるからこそ、子育て世代が安心して子供を産み、育てられる環境づくりをさらに進め、強みをより伸ばす取組が必要です。
- 大都市を中心に地方で兼業や副業をする人が増えてきており、こうした新しい人の流れを専門人材獲得のチャンスと捉え受け入れる取組が必要です。
- 市内の高校生や市内外の大学生等に対して、本市の企業の事業内容や魅力を伝えきれていない可能性があります。また、市内に大学等がないため、高等学校卒業後の進学が市外となっており、Uターンに向けた取組が必要とされています。
- 障害者の雇用促進に向けて、行政と企業、団体が一体となった取組が求められています。
- 生産年齢人口の減少に伴い、外国人労働者の力を必要とする事業者の増加が見込まれています。その際、外国人労働者からも選ばれる地域、事業者となっていることが必要です。

基本施策と方針

1 UI ターンの推進

- 市内企業の人材を確保するため、企業の相談支援を進めるとともに、新卒のみならず第2新卒も対象に就職希望者の受け皿となる説明会や大学等との連携によるインターンシップなどの取組を拡大し、UI ターン就職を推進します。
- 産業が集積している府中市のポテンシャルを発揮し、職住一体となった移住のPR や相談機能を拡充し、移住希望者のニーズにかなう相談支援を進めます。

主な取組内容 ●企業説明会の開催 ●インターンシップの実施支援 ●UI ターンの推進
●移住相談ネットワーク構築や仕事のマッチング など

2 専門人材の確保

- 市内企業の魅力や技術力、府中市の住みやすさなどを発信し、市内外から副業人材を含め新しい産業をリードするクリエイターやイノベーター、スキルを持った人材の集積や育成を進めます。
- 大学等との連携を進め生涯を通じた学び（リカレント教育）や専門人材の活用等を通じて、内部人材のスキルアップを応援します。

主な取組内容 ●働き方改革 ●どこでもワークの環境整備 ●副業人材の活用
●リカレント教育、スキルアップ支援 など

3 多様な働き方の提供

- 誰もが仕事と生活が調和し、個人の能力を発揮できる多様で柔軟な就労環境を、行政と企業、団体が連携して整備し、市内で働く人材の獲得を進めます。
- 働く女性が安心して仕事と子育てを両立できるよう、企業の働き方改革を支援するとともに保育環境の充実に取り組みます。
- 高齢者や障害者が活躍できるよう、企業・団体・行政等が連携し、プチワークをはじめとして柔軟な働き方と就業機会を創出します。
- 多文化共生の視点に立ち外国人労働者の生活環境の向上に努めます。

主な取組内容 ●相談窓口・相談機能等の強化 ●働き方改革の促進 ●プチワークの推進
●高齢者、障害者の雇用機会の拡大 ●外国人労働者の受入環境整備 など

4 府中市の情報発信

- 府中市の持つ企業の多様性や各企業の持つオンリーワンの魅力を、産業界と一体となって発信し、認知度向上を図ります。

主な取組内容 ●ターゲットを絞った情報発信 など

関連計画

産業振興ビジョン／グランドデザイン／地域福祉計画／障害福祉計画／子ども・子育て支援事業計画

基本目標 1 力強い産業が発展するまち

1 - 3

重点政策

「農」の持つ可能性と新たな価値を追求するなど、未来につながる農林業の振興を図ります

■ 府中市の強み

- 上下地域は、水稻の作付けが中心の農家が多く、標高 400m前後と高い地形により、昼夜の気温の寒暖差が大きいため、お米の食味が良いとされています。
- 学校給食における米飯の地産地消率は100%となっています。
- 東京神田に本市の産品や備後府中焼きを販売するアンテナショップ「NEKI」が出店され、首都圏での本市のブランドPRと販路拡大の拠点として展開されています。
- 多様な「ものづくり産業」が集積している強みや高速情報通信網の整備を活かし、農業の持つ可能性をさらに高めていくポテンシャルを有しています。

■ 府中市の現状・課題

- 農業従事者の高齢化や経営基盤の低迷により担い手が不足しており、耕作放棄地が増加しています。
- 農業の安定的で持続可能な経営に向けて、付加価値の高い生産物・特産品の開発や農地集積、スマート農業の導入等による経営基盤の改善が求められています。
- 鳥獣被害が増加し、農業に深刻な被害を与えています。
- 海外展開を進める上では、高付加価値な特産品、安定的な供給等の課題があり、流通ルートやバイヤーとの関係を構築するなどの取組が求められています。
- 農林業は地域の環境保全などの公益的役割も有しており、地産地消等を通じて、地域で農林業を守り、育てる取組が求められています。
- 林業は木材価格の低迷により生産性が低くなっており、林業施策が進まなくなった森林の荒廃が進んでいます。

基本施策と方針

1 農林業の生産基盤の整備

- 農地集積、鳥獣被害対策等の取組により生産基盤を拡充するとともに、収益力の高い農産物の産地化を進め農業経営の安定を図ります。
- 森林環境譲与税等を活用し、森林経営の安定化を進めます。

主な取組内容 ●農道・林道の整備促進 ●農地集積の推進 ●土地改良事業の推進 など

2 後継者・担い手の確保・育成

- 次代を担う意欲ある新規就農者や企業の農業参入を支援する環境整備を進めます。
- 後継者不足が深刻化する地域に対して、集落法人等の設立又は、他産業からの参入支援を行い、農地集積を図ることで効率的な農業生産活動を推進します。
- 農作業等の効率化を図ることにより農業の生産性を向上させ、農産物の安定的な供給及び地域農業の振興を図ります。

主な取組内容 ●新規就農者育成支援 ●認定農業者育成支援
●機械、施設の整備、農業労働力の確保 など

3 農業の持つ可能性の追求

- 諸田ごんぼう、アスパラガスをはじめとする高付加価値製品のさらなる産地化を進めるとともに、6次産業化による府中ブランドとなる特産品の開発を進めます。
- 府中市の推奨作物であるアスパラガス・ほうれんそう・キャベツ・はくさいの栽培面積の拡大及び出荷・販売数量の向上を促進します。
- 道の駅びんご府中やアンテナショップ NEKI を有効に活用した府中ブランドの情報発信により、新たな需要を掘り起こし、販路開拓を進めます。
- 農家レストランや農業体験、農家民泊など、新たなビジネスとしての農業の推進を図ります。

主な取組内容 ●特産品開発の推進 ●道の駅やアンテナショップを活用した情報発信と販売力強化
●アグリビジネスの推進 など

4 スマート農業の推進

- AI やセンサー、ドローン等の新技術を積極的に活用し、農業の省力化や高品質化、鳥獣被害対策を推進します。

主な取組内容 ●デジタル技術の導入に向けた支援 ●ドローンの活用促進 ●鳥獣被害対策 など

関連計画

農業振興ビジョン（案）



基本目標 2 人・つながりが育つまち

- 
- 安心して子供を産み育てることができる環境をつくれます
 - ふるさとを愛し、地域社会や世界で生き抜く力をもった子供たちを育成します
 - 多様な人材が活躍できる土壌を育てます

2-1

重点政策

安心して子供を産み育てることができる環境をつくれます

■ 府中市の強み

- 「子育てステーション」を2か所(北部地域・南部地域)設置するとともに、北部地域ではネウボラコーディネーターを配置し、妊娠・出産・子育ての切れ目ない子育て相談・支援の場として展開しています。
- 木工のまちならではの木育(もくいく:小さいころから木の温かみに触れることで情操を豊かにする)の推進と、木育拠点としての府中市こどもの国が子供の遊びと憩いの場となっています。
- ものづくりのまちとして、近代以降、縫製産業を中心に女性の就労や内職が盛んであり、女性の就労に対する抵抗感が少なく、女性の社会進出が進んでおり共働き家庭の多い地域性があります。それを背景として、保育環境の充実に努めてきており、現在でも待機児童ゼロの実績が続いています。
- 乳幼児医療費助成について、国の制度を上回る助成を行っています。
- 放課後児童クラブを全小学校区に設置し、放課後子供教室とも連携することで、保護者の就労支援のみならず子供の成長に資するサービス提供に努めています。

■ 府中市の現状・課題

- 本市の総人口の減少にあわせ、年少人口も減少しており、少子化が進んでいます。特に、若い世代の未婚化・晩婚化が進んでおり、合計特殊出生率も県平均を下回っています。
- 女性の就業率が高く、結婚・出産期の離職率が低い傾向にあります。そのため、働きながら安心して子育てのできる環境整備のさらなる充実が必要となっています。
- 核家族化の進展、地域とのつながりの希薄化を背景に、孤立し、子育てへの不安を抱える親も増えてきており、子育て中の親に対して、気軽に相談できる人や場、また、子育て支援が必要な家庭に届く情報発信を行うことが求められます。
- 児童虐待や家庭の貧困等から子供を守るための環境整備が求められています。
- 放課後児童クラブを利用する児童数が増加傾向にあり、面積、支援員数、提供サービスといった観点から質の向上が求められています。
- 市内に分娩できる医療機関がなく、また市民ニーズの高い夜間・休日の小児救急に対応できていません。

基本施策と方針

1	「結婚～妊娠～出産～子育て」をとおした切れ目のない支援
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化が進む北部地域において高齢者福祉施策や地域包括ケアシステムと複合的に機能する子育て支援施策を構築するなど、地域性に合った子育て支援（府中版ネウボラ）を推進します。 ● 「子育てステーション」がトータルサポートの拠点となって相談支援の中心となるとともに、子育て世代の交流の機会づくりを進めます。 ● 子供を産み育てることに安心と喜びを感じる環境をつくります。 ● 生活支援を必要としている家庭を中心にすべての子供が等しく健康や学びが保証される機会を受けられる環境をつくります。 <p>主な取組内容 ●若者の婚活・結婚支援 ●子供の貧困対策 ●不妊治療費助成 ●小児科、産婦人科オンライン ●乳幼児医療費助成 ●母子保健の推進 ●府中版ネウボラの推進 など</p>
2	多様な担い手による子供の居場所づくり
	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様なニーズに対応し、また地域性を反映させた保育サービス・放課後の子供の居場所を提供し、働きながら子育てのできる環境の充実を進めます。 ● 子供の発達段階・養育環境・年齢にかかわらず、子供が安心して過ごせ、それぞれの個性が伸ばせる場の確保を、関係機関や地域の連携のもと整備します。 <p>主な取組内容 ●ファミリーサポート事業の推進 ●新たな児童の居場所づくり ●木育の推進 ●企業型保育など多様な保育サービス形態 ●放課後児童クラブ・放課後子供教室それぞれの充実と両者間の連携 など</p>
3	発達障害・児童虐待への対応
	<ul style="list-style-type: none"> ● 被虐待や発達障害といった問題を抱える要保護・要支援児童に対する支援を、関係機関や地域の連携のもと積極的に行います。 <p>主な取組内容 ●AIを活用した虐待リスクの早期発見 ●子ども家庭総合支援拠点の設置 など</p>
4	医療を受けられる環境づくり
	<ul style="list-style-type: none"> ● 府中市民病院を中心に、産科・小児科医療を安心して市民が受けられる体制の整備を目指します。 ● 病児保育・病後児保育サービスを提供し、十分な子供のケアを受けつつ保護者が就労を行うことができる体制を整えます。 <p>主な取組内容 ●市独自の開業支援・医師確保策 ●病児保育・病後児保育の提供 など</p>

関連計画

子ども・子育て支援事業計画／すこやか親子21／男女共同参画プラン

2-2

重点政策

ふるさとを愛し、地域社会や世界で生き抜く力をもった子供を育成します

■ 府中市の強み

- 「教育のまち 府中」として、学校・家庭・地域・企業が連携し、成人となってから社会生活を送るうえで必要となる「主体的に生きる力」「地域で生きる力」を育てるとともに、その基礎的資質としての基礎学力向上に取り組んでいます。
- 全国に先駆けて全市的に小中一貫教育に取り組み、義務教育9年間の子供の学習成長が見通せる教育制度を導入しています。
- コミュニティ・スクールを全校で導入し、地域課題の発見と解決に子供が主体的に取り組むとともに、地域が教育カリキュラムを把握したうえで単なる子供の体験活動にとどまらない取組を展開しています。
- 先端技術をもつ企業と伝統的産業が共存するまちで、年齢に応じた職場見学、職場体験、職場実習インターンシップを通して、産業の現場のみならず企業家の職業理念に触れる機会が継続的にあります。
- 毎年、読書感想文や給食レシピのコンテストで複数入賞しています。子供たちの潜在的な創造力のあらわれであるとともに、コンテスト入賞レシピを道の駅レストランメニューとして採用するといった、その資質を伸ばすための教育が効果をあげています。
- 学校耐震化100%や普通教室へのエアコン設置を早期に達成したほか、情報通信設備やPC 端末の配置など学校のICT 環境を積極的に整備しています。

■ 府中市の現状・課題

- 社会の変化が著しく進む中、子供たちが将来社会において自立して活躍するためには、社会生活に必要な「主体的に生きる力」と、将来の自己選択の幅を広げるための素養を身につけるための教育をさらに進めていく必要があります。
- AI等の技術革新が進んでいく新たな時代にこそ、人間としての高い志を持ち、技術革新と価値創造の源となる飛躍的な知の発見・創造など新たな社会をけん引する能力が求められています。その前提として、読解力、計算力や数学的思考力などの基盤的な学力の習得が必要です。

基本施策と方針

1 一人ひとりの可能性とチャンスを広げる教育環境

- 読解力や数学的思考力などの基礎的な学力・体力を培う教育を充実するとともに、義務教育学校・併設型小中学校における府中市独自のカリキュラムを作成し、社会構造の変化やグローバル化に対応し、新たな社会で活躍できる人材を育成します。
- 安心して快適に過ごせる学校環境を整備することにより、効率的な学習ができる環境づくりを推進します。
- 乳幼児期及び義務教育段階初期からの学びをきめ細かく支援し、途切れることのない特別な支援を通して学びのセーフティネットを構築することにより、個人の発達に合わせ、その資質を伸ばすための教育環境を整備します。
- 家庭環境等により個人のチャンスの芽が摘まれないよう、地域や企業を含めた市全体で取り組みます。

主な取組内容

- 府中市版「教育課程の特例カリキュラム」の作成・実施
- 学校施設の耐震化・エアコン整備
- 学校内軽食ブース設置（自律的な朝食摂取支援）等学びの環境整備
- 言語活用能力の育成強化
- 特別支援教育・教育支援員の充実
- こども食堂
- ひとり親家庭に対する学習支援
- 天領あやめ塾（高校生に対する学習支援）など

2 可能性とチャンスを活かすための資質を、オール府中の体制で育成

- これまで培ってきたコミュニティ・スクールの取組を活かし、学校・家庭・地域が連携した子供の学び・育つ環境の充実を図ります。
- ものづくり都市の魅力を子供たちが学び、深める機会として地元企業との交流活動を拡大するなど産業界と連携したグローバル人材の育成に努めます。
- 給食における地産地消、地元企業との交流や地域貢献の体験によって子供たちの間で共有された価値観やプライドを郷土愛に昇華させます。
- 郷土愛が、成人となって生活の本拠を置いた地域での課題解決に生かされるなど、他者に必要とされる人材としての礎となるような取組を行います。

主な取組内容

- コミュニティ・スクールの推進
- 企業との交流推進
- 地産地消の取組
- など

3 小中一貫教育を軸とした幼保小・中高連携の推進

- 小中一貫教育を軸に幼保小間の連携を強化し、切れ目のない子供の教育を進めます。
- 中学校卒業時に、大人になった自らの姿を想定して自主的に進路選択を行うための判断基準をもてるよう、中高間の連携を行います。
- 市内県立高校について、各々の特徴を生かしつつ地域振興の核としての機能を強化します。

主な取組内容

- 小中一貫教育
- 高校生の通学支援
- 天領あやめ塾（地域魅力づくりコース）
- など

基本目標 2 人・つながりが育つまち

基本施策と方針

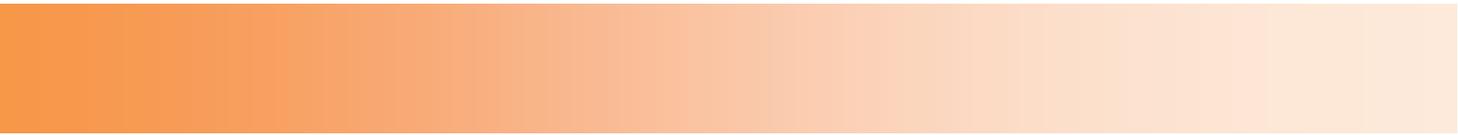
4 Society5.0 を見据えた ICT リテラシーの向上

- 新たな高付加価値な活動が求められる Society5.0 で活躍できる人材を育成します。
- 学校内の情報通信基盤をはじめとした環境を整備するとともに、ICT リテラシー教育に取り組みます。
- ICT をはじめとする先端技術等を効果的に活用する学びを通して、言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力等の資質・能力の育成を図ります。
- 膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を創造できる資質・能力の育成を図ります。

主な取組内容 ●GIGA スクールネットワーク推進 ●プログラミング教育の推進 など

関連計画

教育大綱／子ども・子育て支援事業計画／子どもの読書活動推進計画



2-3

多様な人材が活躍できる土壌を育てます

■ 府中市の強み

- 家内制手工業を中心とした「ものづくりのまち」という歴史が培った、想像力や発想力、起業家としてのマインド、職人氣質といったことが市民の DNA として息づいています。
- 上記のような DNA に裏づけられたバイタリティが、市民の文化度の高さと多様な人材を輩出してきた歴史の背景となっています。
- ハンドメイド作品の制作・販売など、個人でものづくりを趣味にしている人も多くおられます。
- まちづくりや賑わいづくりに取り組む特定非営利活動法人(NPO)などの団体や、自主的に地域課題の解決を考える集まりがあります。
- 普段から公民館活動や文化・スポーツの催しが熱心に行われており、世代を超えて市民の教育への関心を深めるイベントとして「学びフェスタ」が毎年開催されています。
- コミュニティ・スクールの取組をとおして、地域が学校・家庭と連携し、子供たちの豊かな成長を支える役割を担っています。

■ 府中市の現状・課題

- 市内に美術館やコンサート専用施設がないため、アートをはじめとした文化活動に触れる機会が少なくなっています。
- 市民の生涯学習や文化活動を拡大するため、成果を発表する場の充実や学習で得た技術・経験を地域活動へ活かす取組が求められます。
- 地域の伝統文化の保存・継承に向けた取組が求められます。
- 市民の生涯学習活動を広げるため、公民館での出張講座等の学習機会の充実のほか、新たな時代に合った分野に関する学びの場が必要です。
- 多様な生き方が選択できる社会になり、様々な人権への配慮が必要な社会情勢の中、家庭や地域、職場において人権を尊重する環境づくりが必要となっています。
- 高齢化により、地域活動における昼間のプレーヤー(担い手)の確保が重要となっています。
- 地域コミュニティの希薄化が進む中、これからの地域の課題を解決するためにコミュニティが果たす役割が重要となり、市民と行政が目的と課題を共有して協働のまちづくりを進める必要があります。

基本施策と方針

1

まちの魅力につながる文化活動の推進

- 市内で自主的に行われている趣味活動や地域課題解決の取組といったライフスタイルを自らデザインする活動がさらに市内で多く展開されるよう、場や機会の提供や、情報発信など様々なかたちで支援していきます。
- 芸術活動や音楽活動といった文化について、市内活動を支援するとともに、市外・国外の活動と呼び込むことで市民がそういった文化にふれあう機会を増やします。
- まちの賑わいと魅力向上のため、10代後半から20代・30代が自由に活動できる場や発表できる場を、公共や民間を問わず整備される取組を進めます。
- 地域の伝統文化や、市民の文化活動を発表する場の充実に努めます。
- 生涯学習の推進により、世代にかかわらず自らを高める機会を充実させます。
- 公民館活動について、児童生徒の学習発表会やPTA活動などとの連携を図るとともに、市民の教養向上や健康増進に向けた多様な事業を展開します。

主な取組内容 ●出前講座の充実 ●公民館の利活用推進 ●若年層の文化活動（ハンド活動など）の場確保
●市内文化活動の推進 ●アートイベントの開催・招致 ●空き家の利活用 など

2

ダイバーシティの観点からお互いを認めあい、高めあう社会の構築

- 多様な人材や異文化を、性別や価値観、障害等に関わりなく受け入れること（ダイバーシティ）を促進する社会を実現します。
- 大人の「サロン」（交流・発表の場）といった場をつくり、市民同士、市民と関係人口といった、人と人の交わりが生み出す化学反応によって、まちと人を活性化させます。
- 幅広い人権問題に対する理解と認識を深める教育及び啓発活動を充実させ、多様性のあるまちづくりへの下地を強固なものとしします。

主な取組内容 ●多様な人材が活躍できるフィールドづくり ●人権に関する講演会等の開催
●地域共生社会の推進 など

3

市民協働のまちづくりの推進

- 地域で暮らす人々が互いに連携し、自主・自律した協働のまちづくりを進めるため、市民・地域団体・企業・行政が情報を共有し、多くの市民がまちづくりに対し熱意と興味を持ち、活動に参画する仕組みを構築します。

主な取組内容 ●市民・各種団体・企業・行政の交流促進 ●地域リーダーの育成支援
●市民のまちづくり参画推進 など

関連計画

男女共同参画プラン／教育大綱／地域福祉計画／障害福祉計画／子ども・子育て支援事業計画



基本目標 3 活気・賑わいを生むまち



- 市民・団体・企業・行政の総力で地域の魅力を向上し、賑わいと活力を創出します
- 市民に愛され、市外在住者からも選ばれる「社会増減ゼロ」のまちを目指します
- 歴史・文化・ものづくり・食などの多彩な地域資源を活かした観光振興により、地域を活性化します
- すべての人がスポーツを楽しめる環境を整備するとともに、スポーツによる地域の賑わいを創出します

基本目標 3 活気・賑わいを生むまち

3 - 1

重点政策

市民・団体・企業・行政の総力で地域の魅力を向上し、賑わいと活力を創出します

■ 府中市の強み

- 府中市街地には、備後国府の置かれた時代から人や物の集積地として歴史を重ね、近代産業の発展とともに歩んだ家並みが残されており、本物の歴史に裏打ちされた「レトロ」な町並みと未来に繋がる「ものづくり技術」の近代産業が共に息づいているという他の市町にはない個性があります。
- 上下地域では江戸時代に代官所が置かれ幕府直轄地として繁栄し、石州街道を通じて周辺地域の特産物の集散地として賑わった“白壁の町並み”が残され、豪商の名残と周辺には日本の原風景を感じることができます。
- 備後国府跡、旧芦品郡役所や恋しき、翁座(木造芝居小屋)など全国でも希少な歴史的な建造物・文化遺産を有しており、古くから本市が政治・文化、産業・金融の中心であったことが伺えます。
- まちなかからわずかに移動するだけで田園や自然があふれる川辺や山々に出会い、さらにもう少し移動すると海や山にも触れあえる多様性があり、また、中核市、観光都市、高速道路、空港、新幹線駅へも1時間圏内という近接性があります。
- 市民の中には、まちの活性化や地域のネットワークづくりを志して行動を起こす“いこる”プレイヤーが数多く存在し、いろいろな地域や様々な場面で活躍しています。
- 道の駅びんご府中、キテラス、府中市こどもの国等の施設を活用し、地域の魅力を発信し、賑わいを創出しています。
- コミュニティ・スクールを全校で実践し、学校と地域、企業が一体となって本市の宝である子供たちの育成に取り組んでいます。

■ 府中市の現状・課題

- 府中駅周辺をはじめ市内中心部では、賑わいの原動力となる若者・女性・子育て世代などの滞留回遊が少ないことから、市内市外から多くの人を惹きつける新たな魅力を創造していくことが求められています。
- 中山間地域においては、高齢化の進行や人口減少等により、生活機能や伝統文化の維持や存続が危ぶまれる地域があり、医療や福祉をはじめ生活交通など様々な日常生活の課題が深刻化しています。
- 市民共有の財産である歴史文化遺産(資源)を保全し将来につないでいくとともに、人を惹きつける魅力を高め活用することで、歴史的価値を多くの人に広く伝える取組が必要です。
- NPOをはじめ多くの‘志’をもったリーダー、プレイヤーがいるものの、必ずしも相互の情報共有や連携が十分とはいえません。

基本施策と方針

1 賑わいを呼び込む新たな都市魅力の創出

- 人口減少下においても変わらない府中市の持つ本物の個性・価値・強みを重視し、市民が暮らしやすさと誇り愛着（シビックプライド）を感じ、市内外から多くの人々が府中を訪れ活動し住みたくくなるような中心市街地のランドデザインを描き、20～30年後を見据えた“古さ”と“新しさ”が融合するリノベーションのまちづくりを進めます。
- はじまりの広場～備後国府跡周辺エリアでは史跡の現地における保存を前提とした公園やガイダンス施設等の整備と活用、出口地区～本町商店街周辺エリアでは石州街道を軸とした近世から明治大正昭和と連続したレトロでノスタルジックな景観を基調とした空き家・古民家再生などの取組、府中駅周辺エリアや府中市こどもの国～芦田川周辺エリアでは、既存の商業機能や集客拠点を活かした先進的な魅力を創出していきます。
- 市民共有の財産であり府中市の発展、経済興隆の象徴でもある恋しき、旧芦品郡役所庁舎の維持保全と活用、府中市の成り立ちの原点である備後国府跡の調査・研究・整備・活用を計画的に進めます。
- ローカル5G、ドローン、ものづくりの技など府中ならではの長を徹底的に伸ばしていきます。
- 人を惹き付ける魅力として、“常になにかが巻き起こっている(コト起こし)”という状況をつくることも大切であり、“いこる”人材のネットワーク化・ハブ(拠点)づくりを進めます。
- 中心市街地の周縁部では、生活利便性を高めるための生活環境整備を進めます。

主な取組内容

- 芦田川の河川空間の整備と利活用促進
- ウォーカブルなまちなか形成の推進
- 歴史・文化遺産（資源）を活かしたまちづくりの推進
- 市民・各種団体・企業・行政の交流促進
- 持続可能な中心市街地の整備 など

2 中山間地域の活力創出

- 今日の生活定住基盤・産業基盤である高速情報通信網の市内全域整備を完成させるとともに、“田舎にいても全国世界とつながる”5GやIoT、AIなどのICT技術を活用したサービス向上や生活課題の解決、新たなビジネスチャンスの創造を加速させます。
- 中山間地域の基幹産業である農業の振興を図るため、「農業振興ビジョン」を新たに策定するとともに、農家民泊や教育旅行などの体験観光、ICTを活用した農業ビジネスなど「農」の持つ魅力や可能性を追求します。
- 生活利便性がある中心部から、わずかに移動するだけで豊かな田園や自然に触れ合えるという他都市にはない立地特性を活かし、高速情報通信網の整備と空き家・古民家や遊休施設を活用した、オフィスや関係人口の誘致、移住者の獲得を進めます。
- 地域の活力を生み出す原動力は「人」であり、地域で頑張っているリーダーの育成支援、ネットワークづくり、自らの創意で地域づくりに取り組むための仕組みづくりや後押しを進めます。
- “白壁の町並み”、翁座（木造芝居小屋）をはじめ近世～近代由来の景観と日本の原風景ともいべき周辺の中山間地域をあわせた上下地域全体を通じた統一的な魅力創出を進めます。

主な取組内容

- 地域を担う人材の育成・交流
- 地域資源の活用支援
- 高速通信基盤整備
- 農家民泊、教育旅行等の体験観光
- ICTを活用した農業ビジネスの推進 など

基本目標 3 活気・賑わいを生むまち

基本施策と方針

3 計画的な土地利用の推進

- 人口減少社会に対応した都市計画や規制の見直し等により、必要な地域に必要な資源が効率的に配置されることによる土地の有効活用を推進します。
- 日常生活に必要な機能の集約により拠点性を高めるとともに、日常生活や子育てと仕事の両立が可能な居住環境の形成を図るなど、誰もが暮らしやすく、働きやすい環境をつくり出します。

主な取組内容 ●立地適正化計画の推進 ●都市農地の保全・活用事業の実施
●民間参加を可能とする公園の環境整備 など

4 持続可能で利便性の高い都市・交通基盤の構築

- 市民生活の向上のため、都市計画道路、県道等の基幹道路をはじめとした道路整備を推進することで、安全・安心なネットワークを構築するとともに通勤時における渋滞緩和等を目指します。
- 便利で快適な暮らしや交通事故の削減に寄与するよう、地域の課題に応じた道路整備を進めるとともに、学生が安全に登下校できる交通安全プログラムを推進します。
- 自動運転やAI、ICTを活用した交通システムを取り入れることで、多様なニーズに対応した高率的で安心、安全な交通社会を目指します。
- JR福塩線、路線バスや市内巡回バスの接続を改善することで、JR府中駅や道の駅を拠点とした利便性の高い公共交通網の充実を図ります。
- 利便性の向上による公共交通の利用者を拡大するため、JR府中駅や駐輪場、駐車場等周辺の施設整備を進めます。
- 長寿命化の視点にたち、老朽化する市内の生活道路、橋梁を計画的に点検・改修し、適切な維持管理を図ります。

主な取組内容 ●効率的な公共交通体系 ●ICTを活用した交通社会の構築 ●府中駅周辺の整備
●県道府中松永線（南北道路）の推進 ●国道486号の充実
●道路・橋梁の長寿命化 ●幹線道路及び自転車・歩行者道の整備 など

関連計画

ランドデザイン／産業振興ビジョン／観光振興ビジョン／都市計画マスタープラン／立地適正化計画／公共交通網形成計画／強靱化地域計画／舗装長寿命化修繕計画／橋梁長寿命化修繕計画／道路整備プログラム

3 - 2

重点政策

市民に愛され、市外在住者からも選ばれる「社会増減ゼロ」のまちを目指します

■ 府中市の強み

- 「ものづくりのまち」の中に、大企業だけでなく、それぞれに技術を持った個人事業主が散在していることから、持っている技術とその担い手が多岐にわたっています。
- 大企業から中小企業、個人事業主に至るまで、就労の受け入れ先が多様に存在します。
- 人口動態を見ると、「25～29歳」の転入超過が続いており、若い世代の就業等による転入が影響していると考えられます。またこれは、広島県平均と比較しても高い値となっています。
- 都会生活者を中心に増えている、居住自治体とは別の地域でまちづくりや産業に共感し、その地域での活動に参加する人（関係人口）との関わりが重要となっていますが、こうした人を市内のNPO等が中心になって呼び込む取組が行われており、活動に参加する人が増えています。
- 海外に工場拠点をもち企業本社があり、市内企業・法人では外国人人材の雇用が進んでいます。

■ 府中市の現状・課題

- 20歳代の男性が県内市町へ、20歳代の女性が県外へ転出する傾向があり、その層に選ばれるための取組により社会増減を解消させる必要があります。
- 市内に大学・専門学校等がないため、進学により知識やスキルを得るために若者がいったん転出する傾向が強くなります。卒業後の就職先や居住地としてふるさとを意識させる取組が必要です。
- 中小企業や個人事業主は大企業の下請けが多く、それぞれがもつ技術は熟練しているものの、分業により限定的です。B to Cを意識した場合、それぞれの連携、消費者ニーズを意識したスキルのブラッシュアップもしくは市外の人材や産業との連携が必要となります。
- 産業の持つ魅力や住みやすさを活かして、副業人材やワーケーションといった関係人口の関わりを増やす取組が必要です。
- 外国人とふれあう機会が少なく、外国人に対する理解が十分に進んでいません。
- 転出者が増加するとともに遠方からの移住者も増えていません。転出者数を抑制するとともに、市の良さをアピールして移住者数を増やす取組が必要です。
- 高齢化と人口減により、団体をまたいだプロジェクトの立ち上げや地域活動の持続におけるプレーヤーの確保が重要となっています。

基本施策と方針

1 市民に愛され、住みつけたい・帰りたくなるまちづくり

- 府中市で生まれ育った子供たちが、将来就職や企業を考えるとときに地元回帰を第一に考えるような土壌をつくるため、子供たちが地域・郷土に親しみ愛着をもつ機会を増やします。
- 市外に多く流出している若い世代が地元で住みたい、住み続けたいと思う、また親世代・祖父母世代が地元に戻ることを勧めたいようなまちを目指し、若い世代を中心にあらゆる世代が生活の質を実感できるような環境づくりを進めます。

主な取組内容 ●子育て支援、教育の充実
●桜が丘団地販売 ●移住関係補助制度 ●親近補助制度 など

2 関係人口の獲得・拡大

- 「よそのもの」の発想が停滞しつつある地域や産業を活性化させる要素となりうることから、例えば商品開発や販路拡大にノウハウを持つ市外人材のアイデアを地元企業が取り込むことによるイノベーション（新たな切り口）を起こすため、市内のキーパーソンと関係人口が多様にかかわることができる機会をつくります。
- 短期滞在やデュアルライフというライフスタイルをもつ関係人口の特質に合った、テレワーク拠点やコワーキングスペース、市内人材との協働ができるハブ拠点を整備します。
- 市内のイベントやプロジェクトに関する情報を一元的に発信し、府中市との関わりを検討しやすい環境づくりを行います。

主な取組内容 ●市外の大学生等と連携したイベントの開催 ●ふるさと納税者に対する情報発信
●地域おこし協力隊等の活用 ●市外者の関与による地域課題解決プロジェクト
●市外在住者の関与による地場産業課題解決プロジェクト など

3 移住者の獲得

- 子育てに優しいまちとしての特性を活かし、子育て世代、またこれから子育てを行う若者世代を中心に呼び込み、市外からの移住者獲得に繋がります。
- 移住検討者それぞれのライフスタイルにフィットする、住まい、仕事や生活に関する情報を発信することによりマッチングを図り、移住者を増やすことにより地域の活性化と賑わいに繋がります。

主な取組内容 ●包括的かつ一元的な移住関連情報の管理 ●移住関心者に対する情報提供
●移住検討者に対する包括的相談支援体制
●移住者に対する直接的・間接的支援 ●NEW 空き家バンクの運用 など

4 多文化共生社会の推進

- 地域の人と外国人が共に生活し、お互いが地域で活躍できる、住みよい環境づくりを行います。

主な取組内容 ●市内表示の多言語や優しい日本語使用、ピクトグラム表示等ユニバーサルデザインの推進
●地域と外国人の相互理解を深めるための恒常的な取組（交流機会の創出・日本語教室） など

基本目標3 活気・賑わいを生むまち

3-3

重点政策

歴史・文化・ものづくり・食などの多彩な地域資源を活かした観光振興により、地域を活性化します

■ 府中市の強み

- 史跡備後国府跡、旧芦品郡役所、“白壁の町並み”、翁座(木造芝居小屋)など、府中の歴史と文化を今日に伝える文化財や、地域住民から愛される自然豊かなキャンプ場、登山道など、魅力ある資源が数多くあります。
- 名所・名勝の見物型から交流・体験型へと変化した観光ニーズに応えられるよう、上下町では海外からのツアー客にも対応したガイドによる観光コースづくりに取り組んでいます。
- 魅力的で特色のあるものづくり企業が集積しており、学校等からの希望に応じて工場見学を受け入れる事業者も数多くあります。
- 備後府中焼きは、ご当地グルメとして、市外・県外でも知られるようになっており、本市を代表する食の観光コンテンツとして広く認知されています。

■ 府中市の現状・課題

- 観光客数は長期的に見ると伸び悩んでおり、また、周辺地域からの来訪が多い一方で、県外や海外からの観光客を呼び込めていないため、遠くからでも訪れたい観光商品の開発・磨き上げや、近隣市町と連携した広域周遊ルートの設定など、観光客の増加を狙った取組が必要です。
- 観光客の滞在時間は短く、消費額も少ない状況にありますが、継続的に観光を推進していくためには、観光に関わる事業者や地域団体などが稼いでいくことが必要です。
- 市外や県外に向けて本市の観光情報は十分伝わっていないため、観光客のクチコミを意識しながら、Web やSNSを活用した情報発信に取り組む必要があります。
- 外国人観光客に快適に滞在してもらうため、多言語化への対応や、Wi-Fi 設備、キャッシュレス化など、ICT 環境の整備や活用が必要です。
- 観光客が快適に利用できるトイレなどの受入環境の整備や、観光客を温かく迎え交流する「おもてなし」の機運づくり、観光人材の育成などの推進体制づくりを、総合的に進める必要があります。

基本施策と方針

1

選ばれる観光地づくり

- 県内外の人から府中市を観光の訪問先として選んでもらうため、地域団体等とともに、市内にある様々な地域資源を、他地域のものとの「違い」や「物語性」を際立たせることで観光資源として磨き上げるとともに、地域での暮らしぶりも垣間見えるような、住民が主体となったガイドなどでの観光客との「交流」を通じて、府中市ならではの魅力として楽しめる「ライフスタイルツーリズム」を推進します。
- 府中市を代表する地域資源である「歴史・文化」・「ものづくり」・「食」などを観光に活用しながら、「歴史まちづくり」や「グルメ」、「アウトドア」、「教育旅行」をテーマにした重点的な誘客に取り組むとともに、他の地域資源でも、どのような人に訪れてもらえるかを考えながら、地域団体や事業者等による商品づくりを支援します。
- 市外や海外の人々が訪れてみたいと思える「府中市らしい」プロモーションを web や SNS 等を活用しながら広く展開し、訪れた人に満足してもらい、クチコミしてもらうことで、「びんご府中ファン」を増やします。

主な取組内容 ●地域資源を活用した観光商品開発に向けたワークショップの開催
●観光客のニーズを踏まえた新たな商品開発 ●歴史的价值を持つ建物の観光活用に向けた整備
●Web や SNS を活用した情報発信 ●インバウンド等を狙ったプロモーション など

2

地域で稼ぐ観光の実現

- 長期滞在型の観光地づくりに向け、地域団体や地域産業等と連携しながら、満足度の高い観光商品や体験メニュー、お土産物などの開発を促進していくことで、「地域で稼ぐ観光」を実現します。
- 市民や企業、団体等が、新たな誘客に繋がる事業に挑戦できるよう、立ち上がりを支援します。
- 国内外からの観光客がストレスなく市内での観光を楽しめるよう、トイレ環境や公衆フリーWi-Fi、観光案内板など、受入環境の整備を進めます。

主な取組内容 ●地域団体と連携した体験メニューづくりへの支援 ●市外からの教育旅行の誘致
●府中市独自のお土産ブランドづくり ●観光チャレンジ補助金の創設
●観光客が利用できるトイレ環境の整備 ●公衆フリーWi-Fiの設置 など

3

観光を推進する体制づくり

- 観光が経済成長を支える産業となることを目指し、市や観光協会、観光事業者のみならず、これまで観光に携わってこなかった市民やものづくり企業等に対しても、観光を振興することへの理解や参画を促進していく「インナープロモーション」を進めることで、「オール府中」での推進体制を構築していきます。
- 観光客からの目線で観光資源を磨き上げるとともに、体制の構築から活動まで一貫した支援を受けるため、専門性の高い外部人材を活用します。

主な取組内容 ●観光振興を通じた地域の活性化 ●近隣自治体と連携した広域周遊観光の推進
●ガイド等の観光人材の育成 ●地域おこし企業人・地域おこし協力隊の活用 など

関連計画

観光振興ビジョン／ランドデザイン

基本目標 3 活気・賑わいを生むまち

3 - 4

重点政策

すべての人がスポーツを楽しめる環境を整備するとともに、スポーツによる地域の賑わいを創出します

■ 府中市の強み

- 本市では、スポーツ推進団体として、多岐にわたるスポーツの体育協会・スポーツ少年団が活動しています。
- 自発的なスポーツ活動を通じた地域のコミュニティの活性化を目的とした「総合型地域スポーツクラブ」が設立され、スポーツ教室やスポーツイベントを通じた交流活動が展開されています。
- 府中市立総合体育館を中心にグラウンド、武道場など、各スポーツに応じた施設を有しています。
- 市民プールで活動するスイミングクラブによる国体など上位大会への出場、フットサルチーム「TAMS」による中国リーグへの出場など、ハイレベルなスポーツ活動も行われています。
- EV・ゼロハンカーレースやドローンレースなどオンリーワン、ナンバーワンの新しい分野のスポーツの取組が市内外から注目を集めています。

■ 府中市の現状・課題

- スポーツのもつ特性が、単に「する」だけでなく、「する」「見る」「支える」ことで皆がその価値を享受できるものへと変わってきている中で、市外から人々を呼び込み、賑わいを創出するため、観光やまちづくりとの融合、経済・地域の活性化、本市の知名度の向上を目指したスポーツ振興の取組が必要です。
- アーバンスポーツやeスポーツなど、新しい分野のスポーツが生まれており、これらを活用した地域振興や定着が求められています。
- 若い世代、働く世代で運動習慣がある人が少なくなっています。将来的なフレイル予防のためにもこの世代からの体力づくり、健康づくりが必要です。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックによるスポーツ機運の向上を契機に、競技人口の拡大やスポーツ施設の充実を図り、地域を活性化させる取組とともに、障害者スポーツの推進等共生社会の実現に向けた取組が求められています。
- 一部体育施設では老朽化が進んでおり、十分な利用が困難となっています。また、市内の体育施設には芝生の上でスポーツが行える環境がなく、大会を開催できる施設環境の整備が望まれています。

基本施策と方針

1 スポーツを活用した賑わいの創出

- スポーツの持つ「する」「見る」「支える」特性を通じて、市内外から人を呼び込み、世代を問わず誰もがスポーツに親しめるまちの実現を図ります。
- 誰もが気軽に参加できるスポーツイベントやオンリーワンのイベント、市内外からの大会・合宿の誘致等によるスポーツツーリズムの誘客等を推進し、地域経済への波及効果を生み出すなどスポーツによるまちの活性化を図ります。
- スポーツによるまちの活性化の基盤となる、スポーツ施設等の整備・充実を図ります。

主な取組内容 ●各種大会・合宿の誘致 ●市民マラソン大会の開催 ●EV・ゼロハンカーレースの開催
●芝生グラウンドの整備 ●アーバンスポーツ、eスポーツの普及に向けた環境整備
●スポーツ×食、×観光、×ものづくり等他分野との融合やICT活用による魅力向上 など

2 スポーツを通じた健康づくり

- 市民がいつまでも健康で暮らしていくために、若い世代、働き盛り世代からスポーツ習慣や正しい生活習慣を身に付け、フレイル予防、生活習慣病予防に取り組める環境を整えます。

主な取組内容 ●スポーツ習慣づくり ●スポーツ教室の充実 ●フレイル予防の推進
●市民プール等スポーツ施設の整備・改修
●ウェアラブル端末等ICTを活用した健康増進 など

3 スポーツへの参画人口の拡大

- 性別、年齢、障害者の有無などにかかわらず誰もがスポーツに親しめる社会の実現を推進します。
- サンフレッチェ広島をはじめとしたプロスポーツチームや実業団等との交流や連携を強化することを通じて、スポーツへの興味・関心を高め、競技人口の向上を図ります。
- スポーツ環境の基盤となる多様な人材の育成と活躍の場の充実を図ります。

主な取組内容 ●スポーツ団体における女性登用促進 ●障害者スポーツの振興
●スポーツ施設のバリアフリー化 ●トップアスリートによる試合や教室の開催
●指導者、審判員、ボランティア等の育成 ●総合型地域スポーツクラブの充実 など

関連計画

スポーツ推進計画／観光振興ビジョン／健康ふちゅう 21



基本目標 4 安全・安心が持続するまち



- 自然災害をはじめとした様々なリスクから命を守る取組を推進します
- 生涯を通じた市民の健康づくりを推進します
- 誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らせる共生社会をつくります
- 安全・安心で、快適な暮らしを実感できる生活環境を確保します

4 - 1

重点政策

自然災害をはじめとした様々なリスクから命を守る取組を推進します

■ 府中市の現状・課題

- 平成 30 年 7 月豪雨において、河川の氾濫、溪流からの土石流や急傾斜地崩壊などの土砂災害も多数発生し、至る所での道路寸断が発生しており、急傾斜地等の山地災害防止対策、災害に強い道路ネットワークの構築が必要です。
- 災害が大規模になるほど、災害対策本部における情報の取扱いに混乱が生じる傾向にあります。一方で、市民が適切な避難行動を取るためには、正確な情報を、適切な時期に受け取ることが重要で、そのための仕組みづくりが必要です。
- 災害時にだけ特別なことをするのではなく、日頃からの取組が重要です。
- 自らの命は自らが守るという自助意識を高く保つために、市民を含めた様々な人、団体の避難訓練への参加が求められます。
- 高齢化が進む中、災害時における要配慮者は増加しており、地域コミュニティの中での共助による取組が重要になっています。また、地域で支え合う自主防災組織の構築が急務となっています。
- 洪水等の災害時に孤立するおそれのある集落があります。
- 消防団員の減少が続いており、特に中山間地域ではその傾向が顕著になっています。
- 市内の公共施設は、半数近くが建築後 30 年以上経過し、老朽化しており、災害に備えた対応が必要です。
- 外国人の増加に伴い、緊急時における多言語での情報発信が必要となっています。
- 新型コロナウイルス感染症といった未知の感染症流行など、想定外のリスクに対しても迅速かつ的確に対応できる危機管理能力の獲得、体制の整備が必要です。

基本施策と方針

1

地域防災力の向上

- 「自らの身は自らが確実に守る」という行動をとる市民を増やすため、地域防災リーダーを中心として、地域防災力の強化や避難意識の向上を図ります。
- 地域で支え合う共助の社会をつくるため、町内会を中心とした自主防災組織の結成を推進し、活動の充実を図ります。また、避難行動要支援者が確実に避難できる体制づくりに地域と行政が一体となって取り組みます。
- 火災をはじめ災害時には、地域毎に配置している消防団の活動が不可欠であり、消防団の安全装備の充実などの活動支援や新たな団員の確保により、防災力の維持を図ります。

主な取組内容

- マイタイムラインの作成
- 防災リーダー・防災士の育成
- 自主防災組織の活動支援
- 消防団の活動支援 など

2

災害対処能力の向上

- 災害時に市内の情報を市役所が迅速に把握し、適切な判断ができるよう情報処理設備の整備や職員の能力向上を通じて、災害対策本部の機能強化を図ります。
- 市役所が把握した情報については、屋内、屋外といった状況や、若年層、高齢者、障害者、外国人といった属性にかかわらず、素早く、分かりやすく、かつ確実に届くよう、多様な手段、多様な言語による伝達を図ります。
- 災害時に混乱することがないように、災害時に現場確認や物資運搬に役立つドローンを日常生活の場面でも利用し、また、普段から ICT を活用した町内会や防災組織との情報共有を行うなど、平時からの取組を進めます。
- いざというときだけ使用するのではなく、市民にとって普段の生活から慣れ親しんだものとなるよう、日常生活に必要な情報を官民間わず一元化的に集約、発信するオープンデータプラットフォームの構築を進めます。

主な取組内容

- 災害対策本部の機能強化
- 多様な伝達手段の確保
- 災害情報の多言語化
- ドローン、ICT等の活用
- オープンデータの推進 など

基本目標 4 安全・安心が持続するまち

基本施策と方針

3 災害に備えた強靱なまちづくり

- 河川改修や土砂災害対策を計画的に推進し、自然災害に対する備えを進めます。
- 災害時に緊急輸送ができる強靱な道路ネットワーク構築や生活道路整備を行うとともに、耐震性のある水道管路への更新など生活上のリスク低減を図ります。
- 地震に対し建物倒壊による直接的被害を低減することに合わせ、避難路閉塞や救助活動の妨げなど2次の被害の対策を含め、耐震対策を進めます。
- 豪雨による浸水被害をあらゆる角度から検証し、効果的な対策を講じます。
- 災害時に避難所となる公共施設等の計画的な保全や整備を進めるとともに、避難所における生活の質向上にも取り組みます。
- 民間設置の避難所や地域共助など、命を守るための多様なセーフティネットに対する市民理解を深めます。

主な取組内容 ●計画的な施設の耐震化 ●河川改修の推進 ●山地災害防止対策の推進
●生活インフラの強靱化 ●建築物の耐震促進 ●危険ブロック塀対策推進 など

4 あらゆるリスクへの対策

- 新型コロナウイルス感染症など未知の感染症の拡大や ICT 機器の機能停止、長期間の大規模停電など、自然災害も含めたあらゆるリスクに市役所が迅速、的確に対応できるよう、職員の能力の育成や仕組みづくりを進めます。

主な取組内容 ●BCP（事業継続計画）の策定 ●専門家等の知見の活用体制づくり など

関連計画

地域防災計画／強靱化地域計画／公共施設等総合管理計画／耐震改修促進計画



基本目標 4 安全・安心が持続するまち

4-2

重点政策

生涯を通じた市民の健康づくりを推進します

■ 府中市の強み

- 地域産業保健センター(府中地区医師会)を有し、事業主、労働者などに対し産業保健の相談・指導を行っています。
- 府中地区歯科医師会の協力により、妊婦・幼児歯科健診、歯周疾患検診、口腔ケア指導等のオーラル(口腔)フレイル予防の推進等、ライフステージに応じた歯科保健対策を行っています。
- 保健師が積極的に事業場に出向き、企業とともに若い世代からの健康管理・健康教育に取り組んでいます。
- 県内他市町に先駆けて医療機関の新規開業や常勤医師の新規招へいに対する助成制度を設けています。
- 府中地区医師会の3病院(府中市民病院、府中北市民病院、寺岡記念病院)が、二次救急医療機関として救急患者の受入に努めています。
- 市内に精神科の専門病院があり、必要なときに適切な医療サービスを受けることができます。

■ 府中市の現状・課題

- 高齢化が進む中、医療や介護へのニーズが高くなることが想定されますが、それを支える人材・財源には限りがあります。また、人生100年時代を迎え、いつまでも健康で望む生活を送るためには健康寿命の延伸が重要となっており、介護状態に移行する前のフレイルの予防に取り組むことが必要です。
- 若い世代からの健康管理に対する意識を啓発し、生活習慣病予防、重症化予防等に向けた健康づくりを推進する必要があります。
- 市内に分娩できる医療機関がなく、また市民ニーズの高い夜間・休日の小児救急に対応できていません。
- 公的医療機関の勤務医が減少しており、各病院の医療機能の維持が困難になりつつあります。
- 市内で開業する医療機関は、開業医の高齢化や後継者不足などにより減少傾向にあり、初期診療や休日当番医制度の維持が困難になりつつあります。
- 心の不安を抱える人の診療が増加しており、メンタルヘルス対策の必要性が高まっています。
- 高齢化に伴い認知症の方の増加が予想されており、遺漏なく精神科の医療サービスを受診できる対策が必要となっています。

基本施策と方針

1 フレイル予防・疾病予防の推進

- 市民がいつまでも健康で暮らしていくために、若い世代、働き盛り世代からスポーツ習慣や正しい生活習慣を身に付け、生活習慣病予防、フレイル予防、介護予防に取り組みます。
- 特定健診・がん検診・歯周疾患検診の受診勧奨を実施するとともに、受診後のフォローアップの充実を図ります。
- ウェアラブル端末の活用や、パーソナルデータのオープン化など ICT の活用を通じた健康づくりを推進します。

主な取組内容 ●検診受診率の向上 ●ライフスタイルに合わせた健康づくりの推進
●健康管理システムの活用 ●ICT を活用した健康管理 など

2 持続可能な医療体制

- 現在の府中市民病院、府中北市民病院及び府中地区医師会による医療提供体制の維持・充実を図るとともに、不足する医療については、広島県や近隣の市町、関係医療機関等と連携しながら、市民の健やかな暮らしに必要な医療サービスを提供します。
- 医療機関での受診が困難な方に対する遠隔診療など、ICT を活用した診療体制の充実を検討します。

主な取組内容 ●医療従事者の確保 ●地域医療を支える看護職育成への支援 ●医療機関の連携体制の強化 ●府中市民病院、府中北市民病院の機能・診療体制の維持・充実
●ICT による遠隔医療の導入及び医療連携 など

3 メンタルヘルス対策の推進

- こころの健康を維持するための生活や心の病気への対応について、正しい知識を浸透させる取組を推進します。
- 行政と地域の関係機関・団体等との連携を強化し、生きがいづくりなどの「生きることの促進要因」への支援の充実を図るとともに、こころの問題の早期発見・早期対応のため、人材の育成に取り組みます。
- 悩んでいる人を早期発見できるよう、事業場でのこころの健康づくりや地域コミュニティでの暖かい見守りができるネットワークづくりを進めます。
- 悩んでいる人を専門の相談窓口へ繋ぎ対応するため、行政・事業場・地域におけるメンタルヘルスに関する相談体制の充実を図ります。

主な取組内容 ●相談窓口の支援体制の整備 ●労働者のメンタルヘルスケアの取組の推進
●メンタルサポーターの育成支援 ●子供・若者への支援体制の整備 など

関連計画

健康ふちゅう 21 / 自殺対策計画 / 子ども・子育て支援事業計画 / スポーツ推進計画 / 介護保険事業計画

基本目標 4 安全・安心が持続するまち

4 - 3

誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らせる共生社会をつくります

■ 府中市の強み

- およそ7割の世帯が町内会に加入しており、コミュニティの関係づくりが行われています。
- 地区社会福祉協議会を中心に、見守り活動や多世代交流など地域の特性に合わせたふれあい活動が盛んに行われており、地域での支え合いの意識が高く、地域共生社会を構築する素地があります。
- 市内の社会福祉法人による地域福祉活動貢献協議会が設置され、市と連携した取組を行っています。
- 「官民協働による住宅と福祉によるワークショップ」の開催など住宅と福祉が連携し、先進的に住宅セーフティネット制度への取組が行われています。

■ 府中市の現状・課題

- 高齢化、特に一人暮らし高齢者の増加が進む中、今後も要介護者の増加・多様化が懸念されます。今後、介護予防の充実とともに、医療・介護・予防等が連携し、多様化するニーズに対応していく必要があります。
- 発達障害・難病等障害の範囲が拡大し、障害のある人が増加しています。支援が必要な人に適切な情報を提供する必要があります。
- 少子高齢化や個人の価値観の多様化により地域コミュニティが希薄化し、地域での支え合いの力の低下、住環境の質の低下が懸念されています。
- 若年層では地域活動への関心が低くなっています。また、地域の構成員が減少し、これまでどおりの地域活動の維持が困難になることが懸念されます。
- 8050 問題、ひきこもりなど地域課題の複雑化・複合化に対し、公的なサービスでは対応が困難な課題が顕在化しています。

基本施策と方針

1

住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける社会の構築

- 高齢者、障害の有無といった年齢や社会的マイノリティといったことに関係なく生活や権利が保障された環境づくり（ノーマライゼーション）を進めます。
- 地域住民の活動の場や、地域の居場所づくりに取り組む団体との連携を図り、地域での交流を推進します。
- 地域の高齢者が持っている技術・知識を活かし、地域活動の担い手として活躍できる場をつくり、生きがいを持って元気に暮らすことのできる環境をつくります。
- 障害の有無にかかわらず誰もが活躍できるまちづくりのため、地域住民が障害への理解を深め、障害のある人自身も積極的に地域社会に参加することができる環境をつくります。

主な取組内容

- 高齢者の生きがいづくり
- 発達障害者・難病患者の支援の充実
- 障害者の生活・就労支援
- 障害者の相談体制の充実
- 障害者の地域生活移行支援 など

2

地域共生に向けたサポート体制の充実

- 日常での声かけや災害時の避難支援といった地域の見守り活動の充実や、住民、市民団体やボランティア等と連携した地域の支え合い体制づくりを進め、地域のリーダーとなる人材の育成を進めます。
- 障害のある人が自分で望む地域で安心して過ごすために、生活・就労に関する支援及び相談体制を充実します。
- 府中市社会福祉協議会が設置するコミュニティソーシャルワーカーなどと連携し、地域の課題に対して、それぞれの地域特性を活かした支え合い体制づくりを支援し、誰も取り残さない地域づくりを進めます。
- 上下地域に地域包括ケア拠点を設置するなど、地域の子育て、介護、障害、貧困等の課題を包括的に受け止め、課題の複雑化・多様化に対応するため、関係機関が連携した体制の構築・拡充を推進します。
- 増加する認知症の早期発見・早期治療に取り組むとともに、医療・介護・予防等の充実に向け、不足する介護人材の育成・確保を進めます。
- 年齢や生活状況を問わず住まいが確保され、安心して暮らせるまちとするため、官民の住宅部門と福祉部門が連携した居住支援の取組を進めます。

主な取組内容

- ボランティアセンターの運営支援
- 地域共生に向けたプラットフォームの構築
- 地域包括ケア体制の構築
- 市民団体・NPOなどの設立支援
- 介護保険サービスの安定的な提供
- 住宅セーフティネット制度の構築 など

関連計画

地域福祉計画／障害福祉計画／障害者福祉計画／高齢者保健福祉総合計画／介護保険事業計画

基本目標 4 安全・安心が持続するまち

4 - 4

安全・安心で、快適な暮らしを実感できる生活環境を確保します

■ 府中市の強み

- 本市は市域の約7割が森林であり、豊かな自然環境を有しています。
- 犯罪認知件数、交通事故件数、ごみの排出量は年々減少傾向にあります。
- 環境省の発表によると、平成 29 年の国民1人当たりのゴミ排出量は「920 グラム」となっています。府中市では、この値が「716 グラム」となっており、全国と比較して約 22%少なく、また、広島県内の都市の中で最も低い数値となっています。

■ 府中市の現状・課題

- 上水道の施設の老朽化が進み、故障・漏水といった事故が発生するなど、安定した給水を維持するための環境整備が必要となっています。
- 人口減少に対して上水道の給水能力が過剰(オーバースペック)な状態となっています。
- 本市の平成 30(2018)年度末における汚水処理人口普及率は 65.5%で、全国・県と比べると低い水準にあります。公共下水道事業においても府中地区では多くの未整備区域を残している状況です。
- 良好な自然環境を維持し、将来までこの財産を引き継ぐため、環境負荷の低減を進める社会づくりが求められています。
- 市街地、周辺地域を問わず空き家が増加しており、また、コミュニティの希薄化による居住環境の質も低下しつつあります。空き家では特に、保安・衛生・景観面などで地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼすおそれのある「特定空家等」への対策が必要です。
- 公営住宅の老朽化が進んでおり、計画的な解体、更新、集約が必要です。
- 電話やインターネットを通しての特殊詐欺被害が後を絶たず、詐欺被害防止に向けた啓発や水際での対策を行う必要があります。

基本施策と方針

1 生活環境・環境衛生の充実

- いつも安全で安心なおいしい水を、将来にわたり安定して供給するために、水道の広域化を見据えたうえで、水道施設を計画的かつ効率的に更新・強化します。
- 河川の水質汚濁や生活環境の悪化を防止し、衛生的で快適な生活環境をつくるため、公共下水道の集中的な整備と合併処理浄化槽設置の支援を進め、30年後の汚水処理普及率100%へ向けて取組を加速します。
- 自然保護や環境と調和した生活環境をつくり、限りある資源を守るため、環境保全と公害防止対策を推進します。また、ごみの資源化・減量化に積極的に取り組み、埋立処分場の延命化を推進します。
- 環境負担の軽減や市民1人あたりのごみ処理負担の軽減を図るため、広域処理の導入など機能的で効率的なごみ処理の仕組みを導入します。
- レクリエーションの場、自然とふれあう憩いの場や交流する場として、誰もが愛着を感じ、地域が積極的に維持管理に関わる、魅力ある公園や広場の整備を推進します。

主な取組内容

- 水道広域化（県内一元化） ●浄水場、水道施設の耐震化・改修・更新
- 下水道施設の整備加速化 ●合併処理浄化槽設置推進 ●ごみ処理の広域化
- 不法投棄対策、ごみの減量化・リサイクルの推進 ●クリーンセンター（中継施設）整備
- 地域との協働による街区公園等の整備 など

2 住宅政策・空き家対策の推進

- 豊かなライフスタイルの構築を図るため、子育て世代の居住支援や高齢者が自立できる生活支援などこれまで民間任せであった分野に行政が積極的に関わり、官民一体となって居住者の視点から居住環境整備を実施します。
- 市営住宅の計画的な維持をしつつ、地域の実情や社会ニーズに合った整備を進めます。
- 既存住宅団地の再生や密集市街地の改善などにより住宅地の魅力向上を図り、豊かなコミュニティの形成に寄与することを目指します。
- 啓発活動による空き家の増加防止や危険な空き家の除却推進により生活環境の向上につなげ、使える空き家は積極的に活用し、地域コミュニティの振興を図ります。

主な取組内容

- 子育て世代や高齢者などの居住環境の整備 ●団地再生など既存住宅団地の対策
- 市営住宅のストックマネジメント ●危険空き家対策 ●住宅地の魅力向上 など

基本目標 4 安全・安心が持続するまち

基本施策と方針

3 防犯・交通安全の推進

- 防犯意識の啓発・高揚と地域における防犯活動を推進します。
- 交通事故に遭わない、起こさないよう、交通安全教育の充実と交通安全施設の整備を促進するほか、高齢ドライバーの交通安全に配慮した対策を進めます。
- 市民の安心した毎日の生活を守るため、消費者問題によるトラブルや特殊詐欺被害防止の啓発活動や相談窓口の充実、水際での被害の阻止に向けた取組の充実を図ります。

主な取組内容

- 防犯カメラの設置推進
- 交通安全施設の整備促進
- 防犯灯の整備
- 学校における安全教育の推進
- 特殊詐欺被害防止の推進
- など

関連計画

水道ビジョン／管路更新計画／下水道整備計画／空家等対策計画／市営住宅長寿命化計画／
環境基本計画

基本目標 5 ICT都市ふちゅうの実現



- Society5.0を見据え、様々な分野でのICT等の未来技術の導入を目指します

5 - 1

重点政策

Society5.0 を見据え、様々な分野での ICT 等の未来技術の導入を目指します

■ 府中市の強み

- 国の制度を活用し、民設民営による5G を見据えた高速情報通信網の整備を進めています。
- 本市は、備後国府が設置されて以降、先人達がそれぞれの時代ごとの事象や変化に応じて真摯な学びの姿勢と技術の研鑽を持って産業の代謝を重ねて発展してきたものづくり産業が集積したまちであり、デジタル化に伴う社会構造の変革にも的確に対応できるポテンシャルを有しています。
- 本市は、義務教育における先進地として、また、トップランナーとして取組を進め、実績を上げており、Society5.0 時代の教育に求められる環境の変化や資質の変化に柔軟に対応できる素地が整っています。
- 校内通信設備の強化や学習用 PC の充実など学校の ICT 化を積極的に推進しています。

■ 府中市の現状・課題

- 5G や高速情報通信網を活用した産業、暮らし、行政サービスの向上を検討する必要があります。
- あらゆる産業において、継続的な発展・付加価値向上には、デジタルトランスフォーメーション(DX)に対する積極的な取組が必要です。
- 高度情報化社会が急速に進む中、産業や暮らしにおける ICT 等の未来技術を活用するために、最新のスキルや知見の蓄積、人材の育成が必要です。
- 行政においても ICT を活用した利便性の高い行政サービスの提供や業務の効率化・省力化、マイナンバーカードの普及・活用による、さらなる市民サービスの向上が必要です。
- 子供たちが Society5.0 時代を生き抜くためには、ICT の利用スキルやリテラシーを獲得するだけでなく、論理的思考を習得する必要があります。
- 市民の誰もが ICT を扱えるスキルを習得し、リテラシーを向上させることが求められています。
- ICT の推進と同時に、人と人、家族同士、人と自然が繋がるゆとりあるこころ豊かな社会が必要とされています。

基本施策と方針

1 5Gを見据えた高速情報通信網の市内全域整備

- 「超高速・大容量」「超低遅延」「多数同時接続」を可能とする5Gの展開は、距離や時間の制約を受けることなく、どこにいても大都市や世界と繋がっていける世の中が到来することを意味しており、地方創生の大きな転換期となってきます。その中で、「ものづくり」「教育・子育て」「まちの多様性」など、数多くの強みを有する府中市にとっても、これらの強みを、さらに磨き上げ、新たな価値を生み出すための絶好のチャンスと捉え、Society5.0、5G時代の流れを先取りした取組を推進していきます。
- 光ケーブルは5G展開の必須条件であり、これからの生活定住基盤・産業基盤である高速情報通信網の市内全域整備を完成させ、5GやIoT、AIなどのICTを活用したサービス向上や生活課題の解決、新たなビジネスチャンスの創造を加速させます。

主な取組内容 ●高速情報通信基盤整備 ●5G基地局の整備促進 ●5G、ローカル5Gの導入 など

2 産業活性化、暮らしの課題解決に向けたICT導入推進

- 労働力不足が深刻化する中、センサーとロボットを組み合わせたスマート工場、テレワーク・Web会議などの生産性向上や働き方改革、ビッグデータを活用した経営戦略づくりや新たなWebビジネスなどの付加価値づくり、スマート農業、観光プロモーションなど産業分野におけるICT導入を後押ししていきます。
併せて、企業が抱える課題は様々であることから、個々の企業の状況に応じた相談や導入支援、中小・零細企業単独では導入困難な場合も念頭に、「シェア」という発想での共同調達・共同利用などの取組の充実を図ります。
- 交通分野での自動運転、MaaS（交通手段の選択、予約配車から決済までを一括処理できるシステム）、無人センサーやドローン、避難情報の共有化などの防災分野、医療介護でのオンライン診療やオンライン相談、ウェアラブルやWebトレーニングなどのスポーツ・健康づくり分野、市内学校間や国内外の教育機関を結んだ遠隔授業やセミナーなどの教育・学習分野、VR・遠隔ライブなどを活用した賑わいづくりや魅力発信など、市民生活の様々な分野においてICT技術の可能性を追求し、暮らしの質の向上を図ります。

主な取組内容 ●企業の個別相談や導入支援、共同調達、共同利用の推進
●デジタル技術やドローン等を活用した地域課題の解決
●IT人材の獲得、マッチング支援 など

基本目標5 ICT都市ふちゅうの実現

基本施策と方針

3 市民サービスの向上に向けた市役所へのICT導入推進

- 今後、公的サービスのプラットフォームになっていくことが想定されるマイナンバーカードの利便性を向上させ市民への普及促進を図るとともに、民間分野では既に潮流となっているキャッシュレス決済の公共料金等への導入を促進します。
- 学校・庁舎内のICT環境整備を図り、テレワークやWeb会議などの柔軟な働き方改革を進めるとともに、RPA（定型的業務の自動処理）、自動翻訳、ビッグデータを活用した課題分析などの先端機能を導入し、市役所の生産性向上（BPR：業務プロセスの改革＝仕事の仕方の改革）に取り組み、より効率的で満足度の高いサービスを提供していきます。
- 今後の経済活動の効率化や新たなビジネス創出の基礎として、また災害時の避難救助行動や子育て、ごみ収集といった行政サービスの情報を提供することで官民協働の取組や市民参加を推進していく上で、行政が保有している様々な情報を自由に使える形で提供する「オープンデータ」の取組を積極的に進めていくとともに、民間・市民の情報も一元的に提供できる情報プラットフォームの構築を推進していきます。
- 行政が保有している様々な情報を自由に使える形で提供する「オープンデータ」に積極的に取り組むとともに、民間・市民の情報も一元的に提供共有できる情報プラットフォームの構築を推進し、市民参加や官民協働のサービス提供、企業活動の効率化や新しいビジネスの創出などを促進します。

主な取組内容

- 各種証明書のコンビニ交付
- 公共料金のキャッシュレス化の推進
- AI等を活用した行政サービスの推進
- 情報を一元化した官民連携プラットフォームの構築 など

4 市民がICT社会を享受できる仕組みづくり

- 「ICT都市ふちゅう」を実現するためには、市民の誰もがICTのメリットを享受し、使ってみること、使いこなしていけることが大切となってきます。そのためには、限られた人・限られた場面だけで利用するのではなく、普段から慣れ親しむ「普段づかい」ができる仕組みが必要であり、マイナンバーカードや情報プラットフォームの活用や、Web学習やWeb体操、web相談など日常的なコンテンツの開発、操作方法の習得機会など様々な方策で、市民全体のICTリテラシーの向上を図っていきます。
- 学校においては、児童生徒一人1台タブレットの配備を進め、授業改善やプログラミング教育を通じ、将来のSociety5.0時代で活躍できる子供の育成を図ります。

主な取組内容

- ICTリテラシーの向上促進
- マイナンバーカードの活用促進
- 情報プラットフォームの推進
- GIGAスクールの推進 など

関連計画

地域IoT実装計画／ランドデザイン／産業振興ビジョン／観光振興ビジョン

横断的目標

「選ばれるまち」ふちゅうの実現



- 様々な分野の府中市の魅力を「オール府中」で発信します

将来像を実現するための 行政経営の方針



- 府中市役所は成果重視の政策自治体として、「ONE TEAM」で力強く未来に挑戦します

様々な分野の府中市の魅力を「オール府中」で発信します

■ 府中市の強み

- 本市には、奈良時代から平安時代にわたって「備後国」の国府が置かれ、政治・経済・文化の中心として情報・物資が交流する場所となっており、明治時代には郡役所が置かれるなど、近隣地域の政治の中心であり続けた歴史があります。また、上下地域は江戸時代(元禄年間)に幕府直轄地となったことで代官所が設置されて以降、商人層による金融業が広く活発に営まれ、さらには石州街道の宿場町として発展しました。
- 人々の交流や物流が盛んであったという歴史から、多彩な文化や産業が発展し、「ものづくり」に関する伝統産業が市内に散在する一方で大企業も存在するという、クリエイティビティが市民のDNAとして脈々と息づいています。
- まちもあれば、ちょっと足を伸ばせば自然豊かな環境もあり、食や教育などの分野でも多様な地域に多様な魅力があふれています。
- 都心に立地する本市のアンテナショップ「NEKI」が、特産品の販売促進や「備後府中焼き」の提供による食文化の発信を行い、本市出身者を中心として首都圏で本市をアピールする拠点となっています。
- まちおこしを目的としたイベントを市内で実施する人材・団体が多くあります。
- 市外で活躍する本市の出身者は、強い郷土愛を持つ強力な応援団となっています。

■ 府中市の現状・課題

- 様々な魅力ある資源や特性を持ちながら、市外の人達への認知度が低い状況にあります。また、市民ですら魅力に気付いていないことも多くあります。
- 市民一人ひとりが本市の魅力を再発見し、誇りに思えるよう、市内外に向けた資源の整備・活用と情報発信が必要です。
- まちおこしを志す人材・団体間の連携と情報の一元化により、効率的なイベント・プロジェクトの企画運営が必要です。
- 認知度を高めていくため、市外の人々の関心・共感を得るための新たな取組が必要です。
- 本市に継続的な関わりを持つ人(関係人口)を増加させ、共感を呼び、移住者や関係人口の獲得にまで繋げる必要があります。

基本施策と方針

1 戦略的なシティプロモーションの推進

- 効果的な情報発信・交流活動により、府中市に関心・共感をもつ人を広げ、訪れたい、住みたい、住み続けたいまちとして訴求力を高めます。
- 人々の関心・共感を得る取組を実施し、府中市の魅力を戦略的に外部に発信します。
- 年齢などターゲットにあわせた情報ツールを活用したプロモーションを展開します。

主な取組内容 ●ターゲットに応じたコミュニケーションツールの活用 ●訴求力の強いブランドの構築（市の強み、地域資源等） ●シティプロモーション推進体制の強化 など

2 首都圏等における情報発信の強化

- 関係人口の獲得や移住促進をはじめとした産業、観光、物販の拡大を、適切なターゲットとエリア設定に基づく情報発信により進めていきます。
- 首都圏ではアンテナショップ NEKI を中心とした情報発信により府中市の認知度を高め、物販のみならず産業や観光の拡大、関係人口の獲得や移住促進につなげます。

主な取組内容 ●アンテナショップ NEKI を拠点とした情報発信の強化 ●関西圏での移住促進 ●首都圏へのパブリシティ強化 ●デジタルマーケティングの活用 など

3 市民の誇りに裏付けられた「オール府中」の情報発信

- 市民一人ひとりが市に誇りを持ち、いわば府中市のセールスマンとして市の良さを市外に発信する役割を果たすようなインナープロモーションなどの取組を進めます。
- 市民同士、また市民と市外居住者が交流できる場の整備により、市民活動の質と情報発信力を相乗的に向上させます。
- 生活しやすさの実感を移住検討者に、市民・企業活動の魅力と可能性を関係人口に発信することにより、移住者と関係人口の獲得を目指します。
- 市外県外の府中市出身者、関係者との繋がりを強め、パートナーとして連携を進めます。

主な取組内容 ●「関係案内所」（「関係人口」の創出・拡大のための環境整備）の設置 ●広島県人会・同窓会・企業本店支店間のつながり・企業間ネットワークの活用 ●フューチャーセンターの整備 ●所属の枠を超えて交流できる場の設置 など

4 府中市ファンの拡大推進

- 国内外を問わず、府中市に関心をもつ市外在住者のネットワークを構築し、府中市の魅力を発信し、企業版ふるさと納税・クラウドファンディングなどによる支援や市への交流の機会を広げます。

主な取組内容 ●大都市圏における府中市出身者のネットワーク構築 ●広島県人会・同窓会の活用 ●企業版ふるさと納税・CF 活用推進 ●都市圏の大学との交流推進 など

関連計画

ランドデザイン／産業振興ビジョン／観光振興ビジョン

将来像を実現するための行政経営の方針

府中市役所は成果重視の政策自治体として、「ONE TEAM」で力強く未来に挑戦します

■ 府中市の強み

- 本市は、生活拠点の集約化やコミュニティ・スクールの全校実施などを地域と一体となって進めてきました。まちには、ものづくり産業を背景に新たな取組に果敢に挑む高いポテンシャルがあり、府中市役所には、課題の解決に至るまで粘り強く取り組む多くの人材がいます。
- 本市の人口規模は、市役所と町内会、NPO、企業等が繋がりがやすい施策を機動的に講じることができ、また、その反応を受け取りやすいちょうどいい規模感となっています。
- これまでの行財政改革の取組などにより、財政指標の一つである、将来の負債の目安となる将来負担比率は、順調に減少しており、各種財政指標も改善が図られています。

■ 府中市の現状・課題

- 選ばれる府中市になるために、施策の適切なマネジメントを行う観点から、経営資源を有効活用した成果重視の実効性ある仕組みづくりを行っていく必要があります。
- 職員・組織としてのチャレンジ意欲やモチベーションを向上させる環境づくりを行うとともに、組織としての総合力を向上させていく必要があります。
- 社会インフラについては、改修が必要な公共施設などが増えてくることが見込まれており、適正な長寿命化対策により費用を圧縮するとともに、人口減少を見据えた施設の適正配置などを行っていく必要があります。
- 人口が減少する中で今後も財政需要の増加が見込まれることから、自主財源確保の取組を継続的に行っていく必要があります。
- 業務自体の必要性も含めた抜本的な見直し、生産性向上、市民視点でのICTを活用するなど行政サービスの再構築といった見直しが求められています。
- 市民ニーズが複雑かつ多様化し、人口減少により地域の担い手が少なくなっていく中でも、持続可能な地域づくりを行うためには、市民、地域、企業、学校や関係団体などと現状や課題を共有し、相互理解を深めながら、地域や組織の枠を超えて連携していく必要があります。

基本施策と方針

1 成果志向の戦略構築と実効性のある施策マネジメントシステムの確立

- 限られた経営資源を有効に活用した施策マネジメントを確立するため、施策の費用対効果を見極め、選択と集中による施策運営を行うとともに、施策実施に関する PDCA サイクルを強化し、予算、組織、人事配置などが連動した、より実効性のある仕組みづくりを確立します。

主な取組内容 ●施策と組織・人員配置が連動した経営サイクルの確立
●施策と事業の関連付けなどによる事業効果の向上及び事業の選択と集中 など

2 持続可能で質の高い行政サービス提供のための行財政基盤の再構築

- 将来にわたり持続可能な行政サービスを提供するため、業務プロセスの再構築、ICTの積極的な導入、民間活力の活用などにより、業務の生産性向上や市民の利便性向上を図ります。
- 財政の健全化に向け、公共施設等の長寿命化対策によるライフサイクルコストの縮減や人口減少を見据えた適正な配置に取り組むとともに、クラウドファンディングやふるさと納税などを活用した積極的な自主財源確保の取組を進めます。

主な取組内容 ●事務事業の見直し ●業務プロセスの見直しとICTの積極的な活用
●将来を見据えた社会インフラの最適化 ●自主財源の積極的な確保 など

3 組織のパフォーマンス向上に向けたマネジメントシステムの改善

- 多様化する行政ニーズに対応するため、組織体制の最適化を図るとともに、チャレンジが生まれる風通しの良い環境づくりや人材育成などを行うことで、組織のパフォーマンス向上を図ります。

主な取組内容 ●組織体制・職員定数配分の最適化と組織の総合力強化 ●チャレンジが生まれる組織風土の醸成と職員の意識改革 ●モチベーションを高める人材マネジメント など

4 地域・市民との協働体制の再構築

- 地域・市民との協働によるまちづくりを拡大するため、必要な情報等をわかりやすく伝える情報発信機能を強化し、広聴機能を充実させるとともに、多様な主体と連携した協働体制を構築します

主な取組内容 ●情報発信機能の強化と広聴の充実 ●多様な主体との連携
●地域コミュニティの強化 など

関連計画

■ 語句解説集

■ アルファベット	
AI	Artificial Intelligence の略称。人工知能の総称。
BtoC	企業(Business)が一般消費者 (Consumer) を対象に行うビジネス形態。
e コマース	インターネット上で商品やサービスの売買を行う電子商取引。
e スポーツ	コンピューターゲーム、ビデオゲームを使ったスポーツ競技。
e-ラーニング	インターネットを利用した学習形態。
GIGA スクール (構 想)	GIGA=Global and Innovation Gateway for All の略称。義務教育を受ける児童生徒のために、1人1台の学習者用PCと高速ネットワーク環境などを整備する構想。
ICT	Information and Communication Technology の略称。情報通信技術の総称。
IoT	Internet of Things の略称。様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより、相互に制御する仕組みのこと。
KGI	Key Goal Indicator の略。戦略の成果を評価するための指標のこと。
KPI	Key Performance Indicator の略。目標の達成度を評価するための重要業績評価指標のこと。
PDCA サイクル	「Plan=計画」「Do=実行」「Check=評価」「Action=改善」の4つの段階を循環的に繰り返し行うことで、業務を継続的に改善する方法。
SDGs	Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略。2015年の国連サミットにおいて採択されたもので、貧困や飢餓、さらには気候変動や平和など広範な分野にわたって17の目標が設定されている。
SNS	Social Networking Service の略。インターネット上で共通の趣味を持つ人達との交流を目的としたサービスの総称。
Society5.0 [ソサエティ 5.0]	Society1.0 (狩猟社会)、2.0 (農耕社会)、3.0 (工業社会)、4.0 (情報社会) に続く新たな社会。AI、IoTなどの新たな技術により、これまでの社会の課題を解決する未来社会。
UI ターン	Uターンは、地方に生まれ育った人が都市圏への進学や就業を経た後に再び地方の生まれ故郷に戻ることに。Iターンは、都市圏に生まれ育った人が、地方に移住すること。なお、Jターンは、地方出身者が都会の大学へ進学し卒業後、出身地とは異なる地方に移住すること。
VR	Virtual Reality の略。コンピューターによって作り出された仮想現実。
Web	World Wide Web の略。インターネットを利用して情報を発信したり閲覧したりするための仕組み。
Wi-Fi	Wireless Fidelity の略。電波を用いて数m~数十m程度の範囲内で高速なデータ通信を行う通信技術。
■ ア行	
アーバンスポーツ	BMX、スケートボード、などといった、都市型スポーツ。
空き家バンク	空き家の所有者と、空き家の利用を希望する人(住みたい人)が登録し、市がその情報を提供する制度。
アクセス	接近すること。交通の便。ネットワークや通信回線などを使って他のコンピューターに接続すること。
アグリビジネス	農林水産・食品関係の産業のこと。ここでは地域の発展を牽引する高付加価値農業の展開。
アンテナショップ	企業や地方自治体などが自社あるいは地元の製品を広く紹介したり、消費者の反応を探ったりする目的で開設する店舗。
いこる	備後地方の方言で「炭に火が熾(おこり)赤々と燃えている状態」の意。「いこった」炭は、やすやすとは消えず、また、周りの炭も「いこらせて」いくことから、本計画では、まちづくりの灯を起こすことや起こす人たちの熱量にあてられてまちづくりの灯が次々と広がっていく様を表す意味で使用している。
イノベーション	新製品開発や新資源発見など、旧来のものに代わって新規のものが登場すること、革新されること。
イノベーター	新しい常識をつくりだす革新的な人材。

インターンシップ	体験就業。学生が在学中に自分の専攻に関連する企業に体験入社する制度。
インナープロモーション	社内（エリア内）での意思統一や士気の高揚を目的とした活動。
インバウンド	インバウンド（ツーリズム）。訪日外国人による観光。
インフラ	インフラストラクチャーの略。生産や生活の基盤を形成する基礎的な構造物。道路・通信施設などの産業基盤、および学校・病院・公園などの社会福祉・環境施設がこれに該当する。
ウェアラブル端末	腕や頭部など、身体に装着して利用することが想定されたコンピューター端末の総称。
エンパワーメント	社会や組織の一人ひとりが、発展や改革に必要な力を付けること。
オープンデータ	公的機関や企業等が保有するデータを、著作権、特許などの制限がなく、第三者が活用できる情報として公開する仕組み。
オンライン診療	ICT 機器を通して離れた場所から診察する方法。
■カ行	
カリキュラム	一定の教育の目的に合わせて教育内容と学習支援を総合的に計画したもの。
環境負荷	人が環境に与える負担のこと。単独では環境への悪影響を及ぼさないが、集積することで悪影響を及ぼすものも含む。
関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に係る人々をさす。
企業版ふるさと納税	地方公共団体による地方創生のプロジェクトに対して寄附をした企業の税負担を軽減する仕組み。
義務教育学校	小学校課程から中学校課程までの9年間の義務教育を一貫して行う施設一体型の学校。独自のカリキュラム編成が可能となる「教育課程の特例」が認められる。
キャッシュレス	現金を使わずに支払い・受け取りを行う決済方法。
クラウドファンディング	インターネットを通して自分の活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。
クリエイター	創作者。デザイナー、カメラマン等をさす。
クリエイティビティ	創造性。
健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。
グローバル・パートナーシップ	SDGs等を推進するため地球規模の協力関係を持ち、世界平和・環境問題など世界的問題の解決のため提携すること
グローバル化	政治・経済、文化など、さまざまな側面において、従来の国家・地域の垣根を越え、地球規模で資本や情報のやり取りが行われること。
国土強靱化	「強さ」と「しなやかさ」を持った安全・安心な国土・地域・経済社会の構築に向けた取組。
子ども食堂	地域住民や自治体が主体となり、無料または低価格帯で子供やその親、地域の人々たちに食事を提供するコミュニティの場。
コミュニティ・スクール	保護者や地域住民の声を学校運営に直接反映させ、学校・家庭・地域・教育委員会が目標を共有し、一体となって、地域の子供たちを育む仕組みのこと。
コミュニティソーシャルワーカー	地域で困っている人と必要な支援を結びつけたり、地域福祉活動を活性化させたりする、いわば「地域のつなぎ役」をする人。
コワーキングスペース	事務所スペース、会議スペース等を共有しながら独立した仕事をする事ができるスペースのこと。
コンテンツ	テレビやインターネット、スマートフォン等のメディアを介して伝達される文字や映像などの情報のことを指す。もともとは「中身」という意味で、情報の内容や中身のことをいいます。
■サ行	
サテライトオフィス	パソコンやファクシミリを設置し、情報通信技術を活用して、本社などと連絡をとりながら業務を行うオフィス。
シェアリングエコノミー	個人等が保有する活用可能な資産等（スキルや時間等の無形のものを含む。）を、インターネットを介して他の個人等も利用可能とする経済活性化活動。
ジェンダー	性別に基づいて社会的に要求される役割などの社会的性差。
自主防災組織	住民が地域ごとに団結して、まちぐるみで防災活動を行うための組織。
シティプロモーション	地域のイメージを高め、知名度を向上させる活動のこと。

住宅セーフティネット	独力では住宅を確保することが困難な人が、それぞれの所得、家族構成、身体状況等に適した住宅を確保できるような仕組み。
ストックマネジメント	既存の建築物（ストック）を有効に活用し、長寿命化を図る体系的な管理手法。
スポーツツーリズム	スポーツを見に行くための旅行およびそれに伴う周辺観光や、スポーツを支える人々との交流などスポーツに関わる様々な旅行のこと。
スマート農業	ロボット技術や ICT を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業。
セーフティネット	安全網。ライフセーフティネットワークのことで、何らかの生活課題を抱えた人が、さらに困難な状況に陥らないように、安全網として生活を支える制度や仕組みのこと。
総合型地域スポーツクラブ	公共施設等を拠点に自分たちのニーズに合ったスポーツの場を運営していくという「住民主導型」のスポーツクラブ。
■タ行	
ターゲット	目標・対象。
ダイバーシティ	性別や人種の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、広く人材の能力を活かすこと。
タブレット	画面を直接触って操作する、携帯できる情報端末。
多文化共生	文化や民族などの異なる人々が、それぞれの文化や価値観の違いを認め、同じ地域社会の一員として、共に生きていこうとする考え方。
地域包括ケアシステム	地域の実情に応じて高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、医療、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制。
中一ギャップ	小学生が中学に進級した際に起こる勉強や心理面でのギャップ。
ディーセント・ワーク	家庭と仕事の両立を可能とした、働きがいのある人間らしい仕事ができる社会。
データヘルス	医療報酬明細書等のデータの分析に基づく健康保持増進を進めること。
デジタルトランスフォーメーション（DX）	「デジタルによる変革」を意味し、ICT の進化にともない、デジタルデータ、デジタル技術を使い新たなサービスやビジネスモデルを展開することで社会そのものの変革につなげる施策を総称したものの。
デジタルマーケティング	インターネットや ICT など「デジタル」を活用したマーケティング手法。
デュアルライフ	2つの地域に拠点をもち、生活すること。
テレワーク	情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。
特定空家	放置しておくこと倒壊等著しく保安上危険となる恐れのある状態や周辺の生活環境の保全を図るために放置することが不適切な状態などと認められた空家。
ドローン	無人航空機。産業・商用として活用シーンが広がっているマルチコプター。
■ナ行	
ネウボラ	妊娠から出産まで、さらに子供が生まれた後も基本的には6歳まで切れ目なく育児に対するサポートを提供する総合的な支援サービス。
ノーマライゼーション	障害者や高齢者と健常者がお互いに特別な区別なく、等しく生きる社会・福祉環境の整備、実現を目指す考え方。
ノスタルジック	故郷や遠い昔などを懐かしく感じる様。
■ハ行	
パーソナルデータ	特定の個人に関する情報。本計画では、医療分野の個人の診療情報等をさす。
バイヤー	小売店、食品など小売業の仕入れ担当者。
働き方改革	労働環境を大きく見直す取り組みのことを指し、働く人びとが、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を、自分で「選択」できるようにするための改革。
8050（ハチマルゴーマル）問題	「80」代の親が「50」代の子供の生活を支えるという問題でこうした親子が引きこもり等により社会から孤立する問題。
パブリシティ	PR の一種でプレスリリースやインタビューへの対応などを通じてメディアに報道として自社に関する内容を取り上げてもらう活動。

ハラスメント	相手の意に反する行為によって不快な感情を抱かせることであり、「嫌がらせ」をさす。代表的なものは「地位や権力などを背景に相手に嫌がらせを行うパワハラ（パワーハラスメント）」や「男女問わず性的な嫌がらせを行うセクハラ（セクシャルハラスメント）など」がある。
パラダイムシフト	時代や社会において、常識的な考え方の枠組み（パラダイム）が、革命的、劇的に大きく転換（シフト）すること。
バリアフリー	日常生活や社会生活における物理的、心理的な障害や、情報に関わる障壁などを取り除くこと。
ピクトグラム	一般に「絵文字」「絵単語」などと呼ばれ、何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つ。
ビッグデータ	膨大かつ複雑なデータの関係性を分析することで新たな価値を生み出すデータ群。
避難行動要支援者	高齢者、障害者、乳幼児等の防災施策において特に配慮を要する人（要配慮者）のうち、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの災害時の一連の行動をとるのに特に支援を要する人。
5G（ファイブ・ジー）	「第5世代移動通信システム」のことで「高速大容量」「高信頼」「低遅延通信」「多数同時接続」といった特徴をもつ。
ファミリーサポート事業	子育ての応援をしてほしい人（依頼会員）と子育ての応援ができる人（援助会員）が、会員として登録し、地域において子育ての相互援助を行う事業。
副業人材	多様で柔軟な働き方が進む中で、副業・兼業によって多様な能力を発揮する人材。
プチワーク	子育て中の母親や高齢者などが、限られた短時間の中で働ける仕事。
フューチャーセンター	多様な人が集まり、未来志向の対話によって新たなアイデアや中長期的な課題解決を目指す取組みもしくはスペース。
ブラッシュアップ	磨きをかける、さらによくする。
プラットフォーム	駅の「プラットフォーム」にさまざまな人が乗っているように、近年、上部のさまざまなものを下から広く支えるグループや機能を指す用語として使用されている。
フレイル予防	年をとることで心と体の働きが弱くなってきた状態で、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の間をフレイル（虚弱）と呼び、健康長寿に向けて予防すること。
プログラミング教育	ロボット等に自分が意図する動作をさせるために必要となる、命令の順序立て、分岐、繰り返しなどの組み合わせやその改善の検討などを通して、論理的な思考を育てる教育。
併設型小中学校	小学校と中学校を併設し、接続して小中一貫教育を行う学校。独自のカリキュラム編成が可能となる「教育課程の特例」が認められる。
ポテンシャル	本来持っているが現れていない潜在的な能力。
■マ行	
マイタイムライン	台風や大雨の水害等、これから起こるかもしれない災害に対し、一人ひとりの家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」「誰が」「何をやるのか」をあらかじめ時系列で整理した自分自身の防災行動計画のこと。
マイノリティ	社会的少数派。
マッチング	異なったものを組み合わせること。照合すること。
マネジメント	さまざまな資源・資産・リスクを管理し、効果を最大化する手法のこと。
メンタルヘルス	仕事や人間関係などで悩みやストレスを訴える労働者が増加する中で取り組む、予防、早期発見、再発防止などの一連の心の健康づくり。
モチベーション	人が何かをする際の動機づけや目的意識。
■ヤ行	
ユニバーサル・デザイン	文化、言語並びに国籍の違い、老若男女といった差異、障がいの有無や能力を問わずに利用することができる設計（デザイン）。
■ラ行	
ライフサイクルコスト	公共施設等を企画・設計・建設し、その施設を維持管理して、最後に解体・廃棄するまでの、施設の全生涯に要する費用の総額。
ライフスタイル	生活の様式・営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた生活の送り方。

リーマンショック	平成 20 年 9 月にアメリカの投資銀行の経営破たんをきっかけとして発生した世界的な金融恐慌。
リカレント教育	学校を修了して社会に出た人が、必要に応じて働きながらまたは仕事を離れ、再び学校で受けることができる教育。
リテラシー	読み書きの能力の意、多くは特定の分野の知識。本計画で使われる「ICT リテラシー」は膨大な情報の中から、自ら情報を取捨選択し、本当に必要なデータを選別する能力を養うこと。
リノベーション	一般的に、建物の改修のこと。広義で新たなものを「つくり変える」という意味に用いられる。
レジリエント	速やかに元の状態に回復する能力・性質。
ローカル 5G	地域ニーズや個別ニーズに応じて企業や自治体など様々な主体が利用可能な第 5 世代移動通信システム。
ロボテックス	ロボット工学、ロボットに関する技術を研究する学問。
■ワ行	
ワークシェアリング	勤労者同士で雇用を分け合うこと。労働時間を短縮することにより、社会全体の雇用者数を増やそうとする政策。
ワークショップ	まちづくりなど様々なテーマで参加者が集まり、意見をかわす集会。
ワーケーション	「ワーク」（仕事）と「バケーション」（休暇）を組み合わせた造語で、「働きながら休暇を取る」こと。